

下瀬美術館年報
2023年度



はじめに

下瀬美術館は、2023年3月1日に開館いたしました。

当館は、丸井産業株式会社が2018年の創業60周年を契機として、これまで広島地域や産業・経済界などから受けてきた恩顧に感謝し、公共の福祉に貢献するために計画した美術館です。

当館のコレクションは、丸井産業株式会社の代表取締役である下瀬ゆみ子が先代の創業者・下瀬福衛と下瀬静子から受け継ぎながら半世紀以上をかけて少しずつ形成してきたものです。それは、子どもの成長と平和な世の中を祈って収集された京都の大木平藏(丸平大木人形店)の雛人形や雛道具、御所人形から始まり、その後、日本近代や西洋の絵画、工芸へと広げられてきました。人形では、平田郷陽や四谷シモン、日本画では、竹内栖鳳や横山大観、東山魁夷、加山又造、油彩では、浅井忠や梅原龍三郎、佐伯祐三、小磯良平、香月泰男といった幅広い作家たちの作品が揃っています。西洋工芸では、エミール・ガレのガラス作品や家具を中心に、西洋美術では、ミレー、ピサロ、ルソー、マティス、シャガールといった巨匠たちの作品も重要な位置を占めています。

施設の建築は、広島在住の皆さまや全国および海外からの観光客が気軽に鑑賞し、学び、美術に親しく交わっていただく場として、世界で評価された建築家・坂茂氏が設計しました。枝を広げた大木のような柱が印象的なエントランス棟や、水盤の上に並ぶ8つのカラフルなキューブ状の可動展示室など、瀬戸内海を望む広大な敷地に世界に類を見ない建築が実現しています。瀬戸内の多島美を一望できる屋上の「望洋テラス」や、作品のモチーフに出会うことのできる「エミール・ガレの庭」といった、四季折々の自然を楽しんでいただける施設も併設しています。

開館して2年目を迎えますが、4つの展覧会を開催し、多くの来館者を迎えることができました。ここに初年度、2023年度の活動報告をまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

一般財団法人下瀬美術館

目次

はじめに	2
2023年度主要記事	5
展覧会一覧	7
I 展覧会事業	
開館記念展 おひなさまと近代美術	8
エミール・ガレ	15
四谷シモンと金子國義	21
開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り	27
II 教育普及事業	
刊行物	34
講演会・ギャラリートーク	35
ワークショップ	35
鑑賞サポートプログラム	36
スクールプログラム	40
職場体験・出張講座	41
III 調査研究	
岸田劉生作《村娘図》(1920年3月15日制作)について	43
IV 施設	59
V 管理規則	62
VI 利用案内	66

2023年度主要記事

日時	記事	
2023年	2月26日	下瀬美術館オープングレセプション開催。
	3月1日	「開館記念展おひなさまと近代美術—丸平の人形からガレ、マティスまで」を開催。(5月7日まで)
	4月18日	「開館記念展おひなさまと近代美術—丸平の人形からガレ、マティスまで」入場1万人目のセレモニーを行う。
	4月28日	一般社団法人全国美術館会議に入会する。
	5月14日	「エミール・ガレ—アール・ヌーヴォーの花器と家具」を開催。(9月24日まで)
	5月22日	消防訓練実施。
	6月28日	「エミール・ガレ—アール・ヌーヴォーの花器と家具」入場1万人目のセレモニーを行う。
	7月14日	下瀬美術館、登録博物館として認定される。
	9月8日	下瀬美術館、入場5万人目のセレモニーを行う。
	10月1日	「四谷シモンと金子國義—あどけない誘惑」を開催。(2024年1月14日まで)
	11月21日	「四谷シモンと金子國義—あどけない誘惑」入場1万人目のセレモニーを行う。
2024年	1月21日	「開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り」を開催。(4月7日まで)
	3月19日	「開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り」入場1万人目のセレモニーを行う。

展覧会一覧

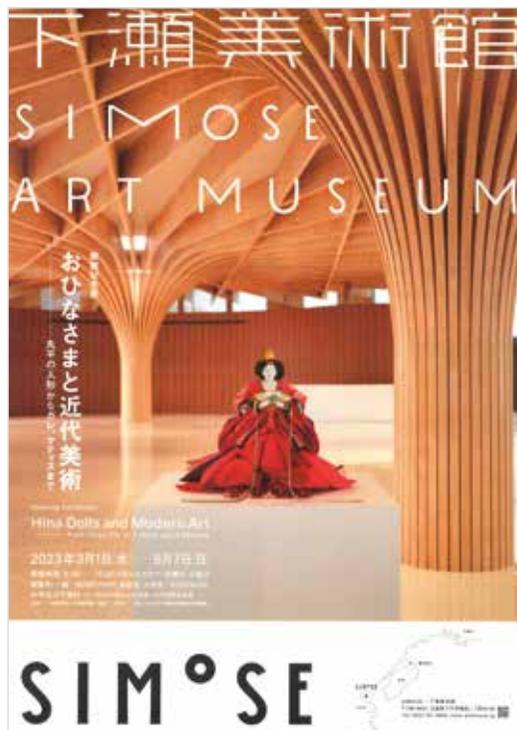
展覧会名	会期
1 開館記念展 おひなさまと近代美術 —丸平の人形からガレ、マティスまで	2023年3月1日(水)–5月7日(日)
2 エミール・ガレ —アール・ヌーヴォーの花器と家具	5月14日(日)–9月24日(日)
3 四谷シモンと金子國義 —あどけない誘惑	10月1日(日)–2024年1月14日(日)
4 開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り	1月21日(日)–4月7日(日)

I

開館記念展

おひなさまと近代美術

—丸平の人形からガレ、マチスまで



会期 2023年3月1日(水) - 5月7日(日) 59日間
 主催 一般財団法人下瀬美術館
 後援 大竹市

概要 本展では、丸井産業株式会社の代表取締役である下瀬ゆみ子が先代の創業者・下瀬福衛と下瀬静子から受け継ぎながら半世紀以上をかけて少しずつ形成してきた「下瀬コレクション」の主な作品を紹介した。それは、子どもの成長と平和な世の中を祈って収集された京都の大木平藏(丸平大木人形店)の雛人形や雛道具、御所人形から始まり、その後、日本と西洋の近代絵画、工芸へと広げられてきたものである。下瀬美術館は、丸井産業株式会社が、2018(平成30)年の創業60周年を契機として、これまで広島地域や産業・経済界などから受けてきた恩顧に感謝し、公共の福祉に貢献するために設立した美術館である。

本展では、下瀬コレクションの多彩な作品の中から、代表的な作品を2部に分けて紹介した。

第1部では企画展示室において、下瀬コレクションの原点ともいえるべき、大木平藏の人形(丸平の人形)や雛道具を展示した。丸平の人形は、宮家をはじめ、三井家や岩崎家など名家に愛されてきた人形で、下瀬コレクションには七世大木平藏の名品が多くある。この中から、代表的な御所人形や能人形をはじめ、雛人形を中心とする節句人形、雛道具、細工の細かな人形まで70点余を展示した。

第2部では8つの可動展示室において、絵画や工芸作品などを、部屋ごとにテーマに沿って展示した。加山又造の日本画から、マチスやシャガールなどの油彩画、エミール・ガレやドームのガラス工芸、モディリアーニの肖像彫刻まで、下瀬コレクションの幅広い作品群、約70点を展示した。

印刷物 チラシ(A4)10,000枚
 ポスター(B2)500枚(B1)50枚
 展示目録(A3 2つ折り、8頁)9,000部

観覧者数 19,652人 *1日平均333人



関連事業

①特別ギャラリートーク「雛人形をめぐって」

講師 大木やよひ
 (丸平大木人形店資料室丸平文庫)

会場 企画展示室

日時 3月4日(土)
 13:30~14:00/15:00~15:30

参加費 無料

参加者 13:30~ 23人/15:00~ 20人

②ワークショップ「具合合わせを作って遊ぼう」

日時 4月15日(土)
 10:00~11:30/13:30~15:00

参加者 10:00~ 6人(+保護者3人)
 13:30~ 9人(+保護者3人)

会場 エントランス棟多目的スペース

参加費 500円

③ギャラリートーク

会場 企画展示室

日時 3月25日(土)
 11:00~11:30/14:00~14:30

参加者 11:00~ 10人/14:00~ 10人

日時 4月22日(土)
 11:00~11:30/14:00~14:30

参加者 11:00~ 25人/14:00~ 23人

掲載記事 中国新聞(2/23、2/27、3/1、3/8、3/18、3/20、3/29、
 3/30、4/1、4/16、4/19)
 朝日新聞(5/2)
 読売新聞(4/9)
 新美術新聞(3/1)
 あんふあん広島(5月号)
 月刊タウン情報広島(3月号、4月号)
 月刊美術(4月号)
 広報おたけ(4月号、5月号)
 GINZA(5月号)
 美術の窓(5月号)
 Casa BRUTUS(5月号)
 Wink(5月号)
 Tj Hiroshima(5月号)

テレビ報道 TSS: 広島ニュース(2/7、4/21)、ライク!(4/21、4/28)
 広島テレビ: 広テレ! News(2/28)、テレビ派(4/20)
 RCC: 広域元就(5/6)、イマなま(5/3)
 ちゅピcom(3/22)
 山口放送: 熱血テレビ(4/25)

[展示目録] 開館記念展 おひなさまと近代美術—丸平の人形からガレ、マチイスまで

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
I 下瀬家と丸平大木人形店						
I-01	七世大木平藏製	1942-	本狂 五節舞姫	昭和～平成時代	木、布	
I-02	七世大木平藏製	1942-	御所人形 石橋	1978年以降	木、布	
I-03	七世大木平藏製	1942-	本行 蘭陵王	1970年代以降	木、布	大太鼓二口が付属
I-04	七世大木平藏製	1942-	本狂 三猿大名	1978年以降	木、布	三軀一組
II 大木平藏の能人形たち						
II-01	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂「三番叟」一尺六寸	1978年以降	木、布	
II-02	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 狂言「末廣狩」	1978年以降	木、布	二軀一組
II-03	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 狂言「福の神」	1978年以降	木、布	
II-04	六世大木平藏製	1913-1994	おぼこ衣裳人形 舞妓	昭和時代	木、布	
II-05	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 竹生島 九寸	1978年以降	木、布	三軀一組
II-06	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 鶴亀	昭和～平成時代	木、布	三軀一組
III 節句を彩る人形						
III-01	七世大木平藏製	1942-	御所人形 立児 衣裳着 男女 五寸	1975年頃	木、布	二軀一組
III-02	七世大木平藏製	1942-	御所人形 獅子舞	1975年頃	木、布	
III-02	七世大木平藏製	1942-	木彫彩色御所人形 賀茂競馬	昭和～平成時代	木	
III-03	七世大木平藏製	1942-	御所人形 水引手裸二十態	1978年以降	木	
III-04	七世大木平藏製	1942-	御所人形 這い子(小)	1975年頃	木、布	
III-05	七世大木平藏製	1942-	御所人形 這い子	1975年頃	木、布	
III-06	七世大木平藏製	1942-	御所人形 軍配持ち	1975年頃	木、布	
III-06	六世大木平藏製	1913-1994	本狂 桃太郎 九寸	1975年頃	木、布	
III-06	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 雉子	1975年頃	木	桃太郎人形付属
III-06	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 猿	1975年頃	木	桃太郎人形付属
III-06	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 犬	1975年頃	木	桃太郎人形付属
III-06	六世大木平藏製	1913-1994	宝車	1975年頃	木	桃太郎人形付属
III-06	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 鬼	1975年頃	木	桃太郎人形付属
III-06	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 鬼	1975年頃	木	桃太郎人形付属
III-06	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 鬼	1975年頃	木	桃太郎人形付属
III-07	七世大木平藏製	1942-	狗宮	1978年以降	木、紙、着色	二口一組
III-08	七世大木平藏製	1942-	源氏絵 貝桶	昭和時代	木、貝、着色	
III-09	七世大木平藏製	1942-	木彫三ツ折レ 市松人形	1978年以降	木、布	夏衣装付属
III-10	七世大木平藏製	1942-	金屏風	昭和～平成時代	紙本金箔	
III-11	六世大木平藏製	1913-1994	黒御袍立像御雛	1975年頃	木、布	二軀一組
III-12	七世大木平藏製	1942-	雪洞	昭和～平成時代	木、布、漆	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
III-13	七世大木平藏製	1942-	三宝、瓶子、口花	昭和～平成時代	木、紙、金属	
III-14	七世大木平藏製	1942-	狗宮	昭和～平成時代	木、紙、着色	二口一組
III-15	七世大木平藏製	1942-	本狂 狛曳 八寸	1978年以降	木、布	二軀一組
III-16	七世大木平藏製	1942-	本狂 狛曳 八寸	1978年以降	木、布	二軀一組
III-17	七世大木平藏製	1942-	結び五人官女	1978年以降	木、布	五軀一組
III-18	七世大木平藏製	1942-	八人楽人	昭和～平成時代	木、布	八軀一組
III-19	七世大木平藏製	1942-	花桶	昭和～平成時代	木、漆	
III-20	七世大木平藏製	1942-	御所人形 立児 衣裳着 男女 五寸	昭和～平成時代	木、布	二軀一組
III-21	七世大木平藏製	1942-	御所人形 犬遊び	1975年頃	木、布	二軀一組
III-22	七世大木平藏製	1942-	御所人形 貝遊び	1975年以降	木、布	貝桶付属
III-23	七世大木平藏製	1942-	御所人形 宝船曳	昭和～平成時代	木、布	宝船付属
III-24	七世大木平藏製	1942-	御所人形 高砂	1975年頃	木	二軀一組
III-25	七世大木平藏製	1942-	御所人形 仙桃	昭和～平成時代	木、布	
III-26	七世大木平藏製	1942-	御駕籠	昭和～平成時代	木、漆	
III-27	七世大木平藏製	1942-	三棚	昭和～平成時代	木、漆	三口一組
III-28	七世大木平藏製	1942-	十三揃	昭和～平成時代	木、漆、布、紙、金属	一揃
III-29	七世大木平藏製	1942-	御所車	昭和～平成時代	木、漆	
IV 細部にこだわる雑道具と多様な人形						
IV-01	七世大木平藏製	1942-	雅楽 楽器揃	1978年以降	木、漆	九口一組
IV-02	七世大木平藏製	1942-	三弦	1978年以降	木、布、象牙	四口一組
IV-03	七世大木平藏製	1942-	三面揃	昭和～平成時代	木、漆、布、金属	
IV-04	七世大木平藏製	1942-	御雑道具(御殿火鉢他)	昭和～平成時代	木、漆、布、紙、金属	一揃
IV-05	七世大木平藏製	1942-	香道具	昭和～平成時代	木、陶器、漆、紙、布	一揃
IV-06	七世大木平藏製	1942-	茶道具	昭和～平成時代	木、金属、陶器、布	一揃
IV-07	七世大木平藏製	1942-	野弁当・茶弁当	昭和～平成時代	木、漆、金属、布	一揃
IV-08	七世大木平藏製	1942-	御所人形 雅楽迦陵頻と胡蝶	昭和～平成時代	木、布	二軀一組
IV-09	七世大木平藏製	1942-	木彫彩色 七福神	昭和～平成時代	木、着色	二軀一組
IV-10	七世大木平藏製	1942-	本狂 歌留多遊び	1978年以降	木、布、紙、歌留多	三軀一組
IV-11	七世大木平藏製	1942-	賀茂人形 十二支行列	1994年頃	木、布	十二軀一組

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
第1室 桜を愛でる						
k1-01	向井潤吉	1901-1995	叢中花	1977年	油彩、カンヴァス	
k1-02	加山又造	1927-2004	月明り	20世紀	紙本着色	
k1-03	西田俊英	1953-	醍醐の月	2021年	紙本着色	
k1-04	七世大木平藏製	1942-	花見人形	昭和時代	木、紙、着色	二十四軀一組
k1-04	七世大木平藏製	1942-	桜	昭和時代	木、紙	花見人形 付属
第2室 エミール・ガレ						
k2-01	エミール・ガレ	1846-1904	花瓶 「フランスの薔薇」	1901-1904年	ガラス(被せガラス、金属酸化物の封入、マルケトリ、アププリケ、グラヴェール)	
k2-02	エミール・ガレ	1846-1904	ひとよ葺文花瓶	1898-1900年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、アンデルカレール、マルケトリ、グラヴェール)	
k2-03	エミール・ガレ	1846-1904	蝶文花瓶	1900年頃	ガラス(被せガラス、気泡の封入、マルケトリ、グラヴェール)	
k2-04	エミール・ガレ	1846-1904	ハートの涙(ケマンソウ)	1902年	ガラス(被せガラス、グラヴェール、マルケトリ、アププリケ)	
第3室 加山又造						
k3-01	加山又造	1927-2004	音	1982年	紙本着色	
k3-02	加山又造	1927-2004	凝	1980年代頃	紙本着色	
k3-03	加山又造	1927-2004	風	1982年	紙本着色	
k3-04	加山又造	1927-2004	春雪	20世紀	紙本着色	
k3-05	加山又造	1927-2004	雪煙ノ嶺	1985年	紙本彩色	
k3-06	加山又造	1927-2004	蒼い日輪	1959年	顔料、カンヴァス	
k3-07	加山又造・金重素山	1927-2004、 1909-1995	金銀彩萬文鉢	1980年代頃	陶	
第4室 マイセンと楽しむ西洋絵画						
k4-01	マイセン窯	1700年代-	テーブル	19世紀半ば以降	磁器	
k4-02	マイセン窯	1700年代-	二人の踊る中国人の子供たち	(原型制作18世紀中頃)	磁器	
k4-03	マイセン窯	1700年代-	猿の楽隊	20世紀 (原型制作18世紀中頃)	磁器(22ピース)	二十二軀一組
k4-04	マイセン窯	1700年代-	貼花ポット&ウォーマー	1824年頃-1923年か	磁器	
k4-05	ジョルジュ・ルオー	1871-1958	サーカス	1925-1929年	油彩、カンヴァス	
k4-06	アンリ・マティス	1869-1954	青いチュチュの踊り子	1942年	油彩、カンヴァス	
k4-07	マルク・シャガール	1887-1985	紫色の花束	1970-1975年	油彩、カンヴァス	

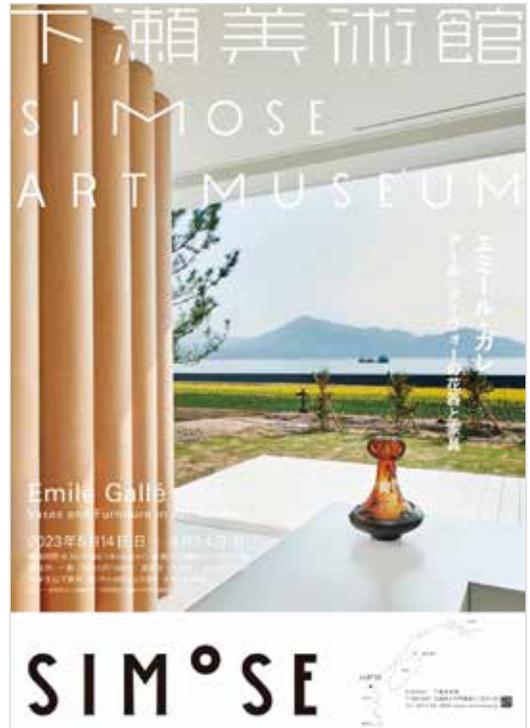
No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
第5室 作品に表された自然						
k5-01	エミール・ガレ	1846-1904	蘭文脚付杯	1900年頃	ガラス(被せガラス、金属酸化物の封入、エッチング、グラヴェール)	
k5-02	エミール・ガレ	1846-1904	ニオイアラセイトウ花器	1900年頃	ガラス(被せガラス、気泡の封入、金属箔の挟み込み、マルケトリ、グラヴェール)	
k5-03	エミール・ガレ	1846-1904	雪中松文花器	1897-1900年頃	ウランガラス(被せガラス、エッチング、エナメル彩)	
k5-04	ドーム	1853-1909、 1864-1930	雪景文花瓶	1900-1907年頃	ガラス(エッチング、エナメル彩)	
k5-05	安田鞠彦	1884-1978	爵金香	1948年	紙本着色	
k5-06	上村淳之	1933-	雪中遊禽	2000年代頃	紙本着色	
k5-07	川合玉堂	1873-1957	湖畔雪霜	1940年代頃	絹本着色	
k5-08	奥村土牛	1889-1990	蘭花	1970年代頃	紙本着色、金泥	
第6室 岡本太郎と四谷シモン						
k6-01	岡本太郎	1911-1996	ほおづえ(椅子)	1968頃	木、布、金属	
k6-02	岡本太郎	1911-1996	坐ることを拒否する椅子	1963頃か	陶	
k6-03	四谷シモン	1944-	少女の人形	1993年	紙、木、ガラス、毛、布、革	赤いドレス
k6-04	四谷シモン	1944-	少女の人形	1993年	紙、木、ガラス、毛、布、革	白いドレス
第7室 光と造形を楽しむランプ						
k7-01	ガレ	1904-1931	スフレ花文ランプ	1920年代頃	ガラス(被せガラス、スフレ、エッチング)、金属	
k7-02	エミール・ガレ	1846-1904	チューリップ型ランプ	1902-1904年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、パチネ)、金属	
k7-03	ガレ	1904-1931	木蓮文ランプ	1920年代	ガラス(被せガラス、エッチング)、金属	
k7-04	エミール・ガレ	1846-1904	花型テーブルランプ	1903-1904年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、グラヴェール)、金属	
k7-05	ガレ	1904-1931	鷲と風景文ランプ	1918-1931年頃	ガラス(被せガラス、エッチング)、金属	
k7-06	ドーム	1853-1909、 1864-1930	とんぼ文ランプ	1904年頃	ガラス(金属酸化物の封入、ヴェトリフィカッション、アップリケ、エッチング、グラヴェール)、金属	
k7-07	ガレ	1904-1931	葉文ランプ	1906-1908年頃	ガラス(被せガラス、エッチング)、金属	
k7-08	ドーム	1853-1909、 1864-1930	雪景文ランプ	1900年以降	ガラス(エッチング、エナメル彩)、金属	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
第8室 肖像の魅力						
k8-01	アメデオ・モディリアーニ	1884-1920	少女の頭部	20世紀	ブロンズ	
k8-02	モイズ・キスリング	1891-1953	女のポートレート	1935年	油彩、カンヴァス	
k8-03	マリー・ローランサン	1883-1956	座る女	1940年代頃	油彩、カンヴァス	
k8-04	藤田嗣治	1886-1968	鳥と少女	1956年	油彩、綿カンヴァス	
k8-05	佐伯祐三	1898-1928	少年時代の ジャック・ブナパンチュール	1925年頃	油彩、カンヴァス	
k8-06	岸田劉生	1891-1929	村娘図	1920年	水彩、紙	
k8-07	小磯良平	1903-1988	白川女	1967年	油彩、カンヴァス	
k8-08	小磯良平	1903-1988	婦人像	1980年頃か	油彩、カンヴァス	
k8-09	ポール・アイズピリ	1919-2016	花を持つ少女	20世紀	油彩、カンヴァス	

2

エミール・ガレ

—アール・ヌーヴォーの花器と家具



会期 2023年5月14日(日)－9月24日(日) 117日間
主催 一般社団法人下瀬美術館/中国新聞社
後援 大竹市教育委員会

概要 エミール・ガレ (1846－1904) は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍したフランスのアール・ヌーヴォーを代表する工芸家である。陶器、ガラス工芸、木工家具の3つの分野にわたって、自然をモチーフとした作品を多く手がけ、装飾芸術の発展に貢献した。ガレは、ジャポニズムの影響を強く受けたことでも知られており、日本でもその作品は広く親しまれている。

近年、注目されているのが、ガレの自然に対する深いまなざしである。植物学者でもあった彼は、草花や昆虫といった自然の様子を丹念に観察することで、その儂い生命がうつろいゆく姿を叙情豊かな作品へと昇華させてきた。

本展は、ガレの初期から晩年に至るまでの軌跡を辿りながら、下瀬美術館が所蔵するガレのコレクションの全容を初めて紹介した。それは、館長である下瀬ゆみ子が日々の暮らしの癒しとして収集してきたもので、愛らしいガラス器から大型の家具まで60点以上を数えた。

当館は、今年の3月、建築家、坂茂の設計のもと、「アートの中でアートを観る。」をコンセプトに活動を始めた。その構想の段階から、ガレのコレクションを重要な要素として位置づけており、ガレの作品に登場する草花を中心に計画した「エミール・ガレの庭」や、ガラスと木材を多用した、ガレと親和性のある建築も見所となっている。アール・ヌーヴォーを彩った花器や家具とともに、庭の草花やユニークな建築を楽しみ、ガレが自然に向けたまなざしに触れてもらった。

また、可動展示室では、ガレと関わりの深いドーム兄弟のガラス工芸をはじめ、ピカソの版画や小磯良平の絵画、藪内佐斗司の彫刻など、8つテーマを切り口に多彩な下瀬コレクションを展示した。

印刷物 チラシ(A4)14,000枚
ポスター(B2)500枚
展示目録(A3 2つ折り、8頁)14,000部
観覧者数 36,599人 *1日平均313人



関連事業

①ワークショップ「大竹手すき和紙の短冊を飾って「七夕かざり」を作ろう」

日時 7月2日(日)11:00~15:00
 会場 エントランス棟多目的スペース
 参加費 300円(1セット)
 参加者 26組およそ80人(保護者込)

②ワークショップ「大竹手すき和紙でハガキを作ろう」

日時 7月29日(土)10:00~12:00/13:30~15:30
 会場 エントランス棟多目的スペース
 講師 おおたけ手すき和紙保存会
 参加費 2,000円(1名)
 参加者 10:00~ 9組14人(保護者込)
 13:30~ 10組16人(保護者込)

③夏休み子ども工作ワークショップ「紙管」をのぞいて広がる世界」

日時 8月12日(土)11:00~
 会場 エントランス棟多目的スペース
 参加費 300円(1名)
 参加者 85人(保護者込)

④ギャラリートーク

会場 企画展示室
 日時 毎月第1、第3土曜日14:00~14:30
 参加者 5月20日_8人、
 6月3日_10人、6月17日_17人、
 7月1日_7人、7月15日_25人、
 8月5日_17人、8月19日_15人、
 9月2日_25人、9月16日_30人、9月23日_25人

掲載記事 中国新聞(5/12、5/13、5/17、5/20、5/27、5/31、6/3、6/5、
 6/10、6/16、6/23、6/17、6/24、6/29、7/1、7/5、7/8、7/9、
 7/11、7/12、7/13、7/15、7/19、7/20、7/22、7/29、8/3、
 8/11、8/25、9/1、9/8、9/9、9/15、9/22)
 アシタノ(6/2)
 GA JAPAN(183号)
 Discover Japan(8月号)
 Casa BRUTUS(8月号)
 オセラ(9-10月号)

テレビ報道 TSS:旬感情報スイッチ(5/14)
 ホームテレビ:5UP(6/5、6/10、6/12)
 広島テレビ:てっぺん(6/3、6/10)
 NHKテレビ:ニュース(7/2)
 RCCテレビ:ランキンLand!(9/8)
 FMはつかいち:昼なんじゃけん!761(7/18)

[展示目録] エミール・ガレ—アール・ヌーヴォーの花器と家具

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
第Ⅰ章 祖国の伝統						
I-01	エミール・ガレ	1846-1904	飾り棚(ツバメの巣)	1864-1870年	陶	
I-02	エミール・ガレ	1846-1904	飾り棚(ツバメの巣)	1864-1870年	陶	
I-03	エミール・ガレ	1846-1904	ゴブレット「ジャック・カロの人物画」	1867-1876年頃	ガラス(グラブヴェール)	
I-04	エミール・ガレ	1846-1904	とんぼ文鳥型栓付瓶	1883-1884年	ガラス(エナメル彩、金彩)	
I-05	エミール・ガレ	1846-1904	グリフィン文栓付瓶	1884年	ガラス(エナメル彩、金彩)	
I-06	エミール・ガレ	1846-1904	ジャンヌ・ダルク文花瓶	1890年	ガラス(被せガラス、エッチング、金彩)	
I-07	エミール・ガレ	1846-1904	人物文耳付花瓶	1891年	ガラス(被せガラス、エナメル彩、金彩)	
I-08	エミール・ガレ	1846-1904	栓付カラフェ	1890年頃	ウランガラス(エッチング、エナメル彩、金彩)	
I-09	エミール・ガレ	1846-1904	カラフェとグラス	1889年	ガラス(エッチング、エナメル彩、金彩)	3口1組
第Ⅱ章 異国の文化						
II-01	エミール・ガレ	1846-1904	猫型置物	1865-1890年代	陶	
II-02	エミール・ガレ	1846-1904	犬型置物	1865-1890年代	陶	
II-03	エミール・ガレ	1846-1904	エナメル彩鶴首花瓶	1884-1900年	ガラス(エナメル彩、金彩、エッチング)	
II-04	エミール・ガレ	1846-1904	蝶文花瓶	1900年頃	ガラス(被せガラス、エッチング)	
II-05	エミール・ガレ	1846-1904	雪中松文花器	1897-1900年頃	ウランガラス(被せガラス、エッチング、エナメル彩)	
II-06	エミール・ガレ	1846-1904	くも文カラフェ	1900年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、アップリケ、グラブヴェール)、金属	2口1組
II-07	エミール・ガレ	1846-1904	馬上騎士文花瓶	1890年頃	ガラス(被せガラス、エッチング)	
第Ⅲ章 草花や昆虫へのまなざし						
III-01	エミール・ガレ	1846-1904	蘭文耳付花瓶	1889年	ガラス(エッチング、エナメル彩、金彩)	
III-02	エミール・ガレ	1846-1904	蘭文脚付杯	1900年頃	ガラス(被せガラス、金属酸化物の封入、エッチング、グラブヴェール)	
III-03	エミール・ガレ	1846-1904	ニオイアラセイトウ花器	1900年頃	ガラス(被せガラス、気泡の封入、金属箔の挟み込み、マルケトリ、グラブヴェール)	
III-04	エミール・ガレ	1846-1904	睡蓮文花器	1898-1900年頃	ガラス(被せガラス、マルケトリ、アンテルカレール、グラブヴェール)	
III-05	エミール・ガレ	1846-1904	蓮文花瓶	1897-1898年	ガラス(被せガラス、グラブヴェール、エッチング)	
III-06	エミール・ガレ	1846-1904	蝶文花瓶	1900年頃	ガラス(被せガラス、気泡の封入、マルケトリ、グラブヴェール)	
III-07	エミール・ガレ	1846-1904	虫文花瓶	1900年	ガラス(被せガラス、グラブヴェール、アプリカシオン)	
III-08	エミール・ガレ	1846-1904	クレマチス文花瓶	1900年頃	ガラス(被せガラス、金属酸化物の封入、金属箔の挟み込み、グラブヴェール)	
III-09	エミール・ガレ	1846-1904	シクラメン文花器	1900年頃	ガラス(被せガラス、グラブヴェール、マルケトリ)	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
III-10	エミール・ガレ	1846-1904	イヌサフラン文花瓶	1900年頃	ガラス(被せガラス、気泡の封入、マルケトリ、グラヴェール)	
III-11	エミール・ガレ	1846-1904	イヌサフラン文耳付花器	1900年頃	ガラス(被せガラス、マルケトリ、グラヴェール、アプリカシオン)	
III-12	エミール・ガレ	1846-1904	イヌサフラン文花器	1900年頃	ガラス(被せガラス、マルケトリ、グラヴェール、アプリカシオン)	

第IV章 家具

IV-01	エミール・ガレ	1846-1904	椅子	1889年	木、象嵌	
IV-02	エミール・ガレ	1846-1904	椅子「桜」	1890年	木、象嵌	
IV-03	エミール・ガレ	1846-1904	テーブル	1891年	木、象嵌	
IV-04	作者不詳		姿見		木、鏡	
IV-05	エミール・ガレ	1846-1904	楓文二段ティーテーブル		木、象嵌	
IV-06	エミール・ガレ	1846-1904	アザミ文キャビネット	(1890年代以降)	木、象嵌、ブロンズ	
IV-07	エミール・ガレ	1846-1904	シャンパングラス(グリーン)	1902年頃	ガラス	
IV-08	エミール・ガレ	1846-1904	シャンパングラス(オレンジ)	1902年頃	ガラス	
IV-09	エミール・ガレ	1846-1904	シャンパングラス(パープル)	1902年頃	ガラス	
IV-10	エミール・ガレ	1846-1904	ワイングラス	1902年頃	ガラス	
IV-11	エミール・ガレ	1846-1904	ワイングラス	1902年頃	ガラス	
IV-12	エミール・ガレ	1846-1904	化粧台	1900年頃	木、象嵌、鏡	
IV-13	エミール・ガレ	1846-1904	サイドテーブル		木、象嵌	
IV-14	エミール・ガレ	1846-1904	チューリップ型ランプ	1902-1904年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、パチネ)、金属	
IV-15	エミール・ガレ	1846-1904	オンベル文ベッド	1904年頃	木、象嵌	
IV-16	エミール・ガレ	1846-1904	オンベル文椅子	1902年頃	木	
IV-17	エミール・ガレ	1846-1904	ざくろ文壁灯(一対)	1910年頃	ガラス(被せガラス、エッチング)、ブロンズ	2口1組
IV-18	エミール・ガレ	1846-1904	蝶文サイドテーブル		木、象嵌	
IV-19	エミール・ガレ	1846-1904	花型テーブルランプ	1903-1904年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、グラヴェール)、金属	
IV-20	エミール・ガレ	1846-1904	虫文キャビネット	(1890年代半ば以降)	木、象嵌	
IV-21	エミール・ガレ	1846-1904	とんぼ文サイドテーブル	1910年頃	木、象嵌	
IV-22	エミール・ガレ	1846-1904	とんぼ文キャビネット	1900年頃	木、象嵌、金属	
IV-23	エミール・ガレ	1846-1904	風景文花ネストテーブル		木、象嵌	
IV-24	アルフォンス・マリア・ミュシャ	1860-1939	ビザンチン風の頭部：ブルネット	1897年	リトグラフ、紙	
IV-25	ビエール＝オーギュスト・ルノワール	1841-1919	帽子をかぶった少女	(1898年)	リトグラフ、紙(2/150)	

第V章 自然のうつろいを見つめて

V-01	エミール・ガレ	1846-1904	ハートの涙(ケマンソウ)	1902年	ガラス(被せガラス、グラヴェール、マルケトリ、アプリカシオン)	
V-02	エミール・ガレ	1846-1904	とんぼ文花器	1893年	ガラス(被せガラス、エッチング、グラヴェール)	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
V-03	エミール・ガレ	1846-1904	ひとよ葺文花瓶	1898-1900年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、アンテルカレール、マルケトリ、グラヴェール)	
V-04	エミール・ガレ	1846-1904	花瓶「フランスの薔薇」	1901-1904年	ガラス(被せガラス、金属酸化物の封入、マルケトリ、アプリケーション、グラヴェール)	
V-05	エミール・ガレ	1846-1904	素描「サイン」		紙、鉛筆	*個人蔵
V-06	エミール・ガレ	1846-1904	素描「サイン」		紙、鉛筆	*個人蔵
V-07	エミール・ガレ	1846-1904	素描「しだ・きのこ」		紙、鉛筆	*個人蔵
第1室 ガラス技法の世界						
第2室 ガレ亡き後の工房						
k1-01	ガレ	1904-1931	木蓮文ランプ	1920年代	ガラス(被せガラス、エッチング)、金属	
k1-02	ガレ	1904-1931	プラム文花瓶	1920年代	ガラス(被せガラス、スフレ、エッチング)	
k1-03	ガレ	1904-1931	あさがお文花瓶	1918-1931年頃	ガラス(被せガラス、エッチング)	
k1-04	ガレ	1904-1931	鷲と風景文ランプ	1918-1931年頃	ガラス(被せガラス、エッチング)、金属	
k1-05	ガレ	1904-1931	葉文ランプ	1906-1908年頃	ガラス(被せガラス、エッチング)、金属	
k1-06	ガレ	1904-1931	スフレ花文ランプ	1920年代頃	ガラス(被せガラス、スフレ、エッチング)、金属	
第3室 ドーム						
k2-01	ドーム	1853-1909、1864-1930	魚藻文花瓶	1898年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、エナメル彩、アンテルカレール)	
k2-02	ドーム	1853-1909、1864-1930	すみれ文鉢	1905年頃	ガラス(エッチング、エナメル彩、金彩)	
k2-03	ドーム	1853-1909、1864-1930	風景文花瓶	1899年頃	ガラス(エッチング、アンテルカレール)	
k2-04	ドーム	1853-1909、1864-1930	木の実文花瓶	1904-1907年頃	ガラス(ヴィトリフィカシオン、アプリケーション、エッチング、グラヴェール)	
k2-05	ドーム	1853-1909、1864-1930	とんぼ文花瓶	1904年頃	ガラス(金属酸化物の封入、ヴィトリフィカシオン、アプリケーション、エッチング、グラヴェール)	
k2-06	ドーム	1853-1909、1864-1930	雪景文ランプ	1900年以降	ガラス(エッチング、エナメル彩)、金属	
第4室 マイセンと楽しむ西洋絵画						
k4-01	マイセン窯	1700年代～	四大陸の寓意ヨーロッパ	19世紀	磁器	
k4-02	マイセン窯	1700年代～	四大陸の寓意アメリカ	19世紀	磁器	
k4-03	マイセン窯	1700年代～	四大陸の寓意アジア	19世紀	磁器	
k4-04	マイセン窯	1700年代～	四大陸の寓意アフリカ	19世紀	磁器	
k4-05	マイセン窯	1700年代～	猿の楽隊	20世紀 (原型制作18世紀中頃)	磁器(22ピース)	22軀1組
k4-06	マイセン窯	1700年代～	貼花ポットとウォーマー	1824年頃-1923年か	磁器	
k4-07	ジョルジュ・ルオー	1871-1958	サーカス	1925-1929年	油彩、カンヴァス	
k4-08	アンリ・マティス	1869-1954	青いチュチュの踊り子	1942年	油彩、カンヴァス	
k4-09	カミーユ・ピサロ	1830-1903	バザンクール草原・秋	1894年	油彩、カンヴァス	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
第5室 小磯良平						
k5-01	小磯良平	1903-1988	西洋人形	1973年	油彩、カンヴァス	
k5-02	小磯良平	1903-1988	大原女	1957年	油彩、カンヴァス	
k5-03	小磯良平	1903-1988	アトリエにて	1959年	油彩、厚紙	
k5-04	小磯良平	1903-1988	室内(音楽エスキース)	1973-1974年頃	パステル、紙	
k5-05	小磯良平	1903-1988	白川女	1967年	油彩、カンヴァス	
k5-06	小磯良平	1903-1988	白川女	1967年	竹ペン、紙	
k5-07	小磯良平	1903-1988	婦人像	1980年頃か	油彩、カンヴァス	
k5-08	小磯良平	1903-1988	少女(婦人像)	(1976年)	油彩、カンヴァス	
第6室 藪内佐斗司						
k6-01	藪内佐斗司	1953-	大和顔施坊		木、漆、顔料	
k6-02	藪内佐斗司	1953-	上向き童子		木、漆、顔料	
k6-03	藪内佐斗司	1953-	縁結び童子		木、漆、顔料	
k6-04	藪内佐斗司	1953-	平城の童子鹿坊		木、漆、顔料	
k6-05	藪内佐斗司	1953-	猫	(1998-2000年)	ブロンズ	5躯1組
第7室 東山魁夷						
k7-01	東山魁夷	1908-1999	緑の詩	1983年	紙本着色	
k7-02	東山魁夷	1908-1999	海と山 海Ⅰ(海風)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-03	東山魁夷	1908-1999	海と山 海Ⅱ(渚の波紋)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-04	東山魁夷	1908-1999	海と山 海Ⅲ(潮満つ)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-05	東山魁夷	1908-1999	海と山 海Ⅳ(潮声)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-06	東山魁夷	1908-1999	海と山 海Ⅴ(松と岩)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-07	東山魁夷	1908-1999	海と山 山Ⅰ(朝雲)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-08	東山魁夷	1908-1999	海と山 山Ⅱ(瀧の音)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-09	東山魁夷	1908-1999	海と山 山Ⅲ(山雲)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-10	東山魁夷	1908-1999	海と山 山Ⅳ(雲湧く嶺)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
k7-11	東山魁夷	1908-1999	海と山 山Ⅴ(煙雨)	1976年	リトグラフ、紙(117/150)	
第8室 肖像の魅力						
k8-01	脇田和	1908-2005	鳥と娘	1974年	油彩、カンヴァス	
k8-02	織田廣喜	1914-2012	裸婦		油彩、カンヴァス	
k8-03	有元利夫	1946-1985	時代	1979年	ミクストメディア、カンヴァス、パネル	
k8-04	三岸好太郎	1903-1934	ピエロ	1932年頃	油彩、カンヴァス	
k8-05	ジャン＝フランソワ・ミレー	1814-1875	洗濯女	1854年頃	油彩、板	
k8-06	アンリ・ルソー	1844-1910	家族のつどい	1896年	油彩、カンヴァス	
k8-07	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	1841-1919	少女		油彩、カンヴァス	
k8-08	ジュール・バスキン	1885-1930	横たわる裸婦	1925年	油彩、鉛筆、カンヴァス	

3

四谷シモンと金子國義 —あどけない誘惑—



会期 2023年10月1日(日) - 2024年1月14日(日) 91日間
主催 一般社団法人下瀬美術館/中国新聞社

概要 現代の人形作家としてカリスマ的な人気を誇る四谷シモン(1944-)。少女アリスのシリーズで知られ、熱狂的なファンの多い画家、金子國義(1936-2015)。二人は1960年代初頭に新宿のジャズ喫茶で出会い、アングラ劇団でともに女形役者を経験しながらも、人形と絵画というそれぞれの表現を確立させて、互いの美意識を認め合う友人として長年親交を深めた。

本展では、この二人が精神的支柱としたフランス文学者、澁澤龍彦が切り拓いた「エロティシズム」といった文学的なテーマを軸として、下瀬美術館が所蔵する四谷シモンの全作品に、鎌田共済会所蔵の作品を加えて、金子國義の油彩画や版画とともに紹介した。二人の初個展時代である1960-70年代の過激でエキセントリックな作品をはじめ、「少女」や「少年」といった共通するモチーフを用いたそれぞれ独自でありながら共鳴し合う耽美で猥雑な世界が展開された。

また、可動展示室では、坂茂がパリ郊外のセヌ河に浮かぶセガン島に設計した複合音楽施設「ラ・セヌ・ミュージカル」の模型と写真、日本を代表する人形作家である平田郷陽、ピカソの版画や香月泰男の絵画、エミール・ガレのガラス工芸など、8つのテーマで多彩な下瀬コレクションを紹介した。

印刷物 チラシ(A4)25,000枚
ポスター(B2)500枚
展示目録(A3 2つ折り、12頁)10,000部
展覧会図録(B5版、96頁)2,000部

観覧者数 18,055人 *1日平均198人



関連事業

①四谷シモン特別ギャラリートーク

日時 10月1日(日)11:00~11:30
 会場 企画展示室
 参加費 無料
 参加者 110人
 内容 ウェブサイト(<https://simose-museum.jp/news/post-368/>)で公開

②下瀬美術館をもっと楽しもう！ミュージアムワークシート

日時 11月1日(水)~30日(木)
 会場 エントランス受付にてワークシートを配布
 参加費 無料
 参加者 305人



③ワークショップ「クリスマスを彩るボタニカルキャンドル」

日時 12月8日(金)、9日(土)
 10:00~12:00、13:30~15:30
 会場 エントランス棟多目的スペース
 参加費 1500円
 参加者 8日10:00~ 4人
 8日13:30~ 4人
 9日10:00~ 7人
 9日13:30~ 6人



④ギャラリートーク

会場 企画展示室
 日時 毎月第1、第3土曜日14:00~14:30
 参加者 10月7日_11人、10月21日_15人、
 11月4日_10人、11月18日_13人、
 12月2日_10人、12月16日_10人、
 1月6日_30人

掲載記事 中国新聞(9/2、9/12、9/29、9/30、10/6、10/8、10/14、
 10/20、11/3、11/4、11/8、11/10、11/22、11/24、12/5、
 12/6、12/7、12/8、12/9、12/15、12/17、12/22、12/29)
 朝日新聞(12/6、12/12)/GA JAPAN(183号)
 Discover Japan(8月号)/Casa BRUTUS(8月号)
 オセラ(9-10月号)/信濃毎日新聞(11/3)埼玉新聞(11/5)
 静岡新聞(11/6)/京都新聞(11/16)/日本海新聞(11/23)
 南日本新聞(12/1)/東奥日報(12/10)/高知新聞(12/12)
 北國新聞(夕刊)日付不明/新建築(10/1発売)/
 ペン2023(下)/建築と社会(2023年12月号)

テレビ報道 ちゅピCOM：川島宏治のTHEひろしま・プラス1(10/7~10/20)
 FMはつかいち：昼なんじゃけん！761(10/10)
 山口放送：mix(10/18)
 RCCテレビ：元就。(1/14)

[展示目録] 四谷シモンと金子國義—あどけない誘惑

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
I 少女たち						
I-01	四谷シモン	1944-	少女の人形	1983年	紙、木、ガラス、毛、布、革	
I-02	金子國義	1936-2015	アリス	1972年	油彩、カンヴァス	
I-03	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」1	1978年	リトグラフ	個人蔵
I-04	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」2	1978年	コロタイプ	個人蔵
I-05	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」3	1978年	コロタイプ	個人蔵
I-06	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」4	1978年	コロタイプ	個人蔵
I-07	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」5	1978年	コロタイプ	個人蔵
I-08	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」6	1978年	コロタイプ	個人蔵
I-09	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」9	1978年	コロタイプ	個人蔵
I-10	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」11	1978年	コロタイプ	個人蔵
I-11	金子國義	1936-2015	版画集「アリスの夢」12	1978年	コロタイプ	個人蔵
I-12	金子國義	1936-2015	Aphrodite	1978年	油彩、カンヴァス	
I-13	金子國義	1936-2015	箱の中	1969年	油彩、カンヴァス	
I-14	金子國義	1936-2015	Barber	1976年	油彩、カンヴァス	
I-15	金子國義	1936-2015	ピリティスの唄	1975年	油彩、カンヴァス	コシノジュンコ氏蔵
I-16	四谷シモン	1944-	少女の人形	1984年	木、ガラス、毛、布、革	
I-17	四谷シモン	1944-	少女の人形	1985年	紙、木、ガラス、毛、布、皮	
I-18	四谷シモン	1944-	少女の人形	1993年	紙、木、ガラス、毛、布、革	
I-19	四谷シモン	1944-	少女の人形	1993年	紙、木、ガラス、毛、布、革	
II 天使						
II-01	四谷シモン	1944-	天使－澁澤龍彦に捧ぐ	1988年	木、ガラス、金属	
II-02	四谷シモン	1945-	目前の愛1	1995年	紙、木、ガラス、金属、毛	公益財団法人鎌田共済会蔵
II-03	四谷シモン	1946-	目前の愛3	1996年	紙、木、ガラス、金属、毛	公益財団法人鎌田共済会蔵
III 機械仕掛の人形						
III-01	四谷シモン	1944-	機械仕掛の少女	1985年	真鍮、ガラス、木、樹脂(ed.13/20)	
III-02	四谷シモン	1944-	機械仕掛の少年1	1980年	紙、木、ガラス、毛、布、革、金属	公益財団法人鎌田共済会蔵
III-03	四谷シモン	1944-	機械仕掛の少年2	1980年	紙、木、ガラス、毛、布、革、金属	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
IV 少年と青年						
IV-01	四谷シモン	1944-	少年の人形	1984年	木、ガラス、毛、布、革	
IV-02	四谷シモン	1944-	少年の人形	2007年	紙、木、桐塑、ガラス	
IV-03	金子國義	1936-2015	HENRY	1975年	油彩、カンヴァス	コシノジュンコ氏蔵
IV-04	金子國義	1936-2015	厨房にて	1975年	油彩、カンヴァス	
IV-05	金子國義	1936-2015	ドレッシングルーム	1981年	油彩、カンヴァス	
IV-06	金子國義	1936-2015	ジャンピング	1999年	油彩、カンヴァス	
IV-07	金子國義	1936-2015	ザリガニ	1976年	油彩、カンヴァス	
IV-08	金子國義	1936-2015	「ユリイカ」表紙絵	1990年	油彩、カンヴァス	
IV-09	金子國義	1936-2015	三島由紀夫	2003年	油彩、カンヴァス	
V 初個展の時代(1960年代、70年代)						
V-01	四谷シモン	1944-	未来と過去のイヴ 10	1973年	紙、木、ガラス、毛、布	
V-02	四谷シモン	1944-	未来と過去のイヴ 15	1973年	紙、木、ガラス、毛、布	
V-03	四谷シモン	1944-	懐み深さのない人形 8	1975年	紙、ガラス、布	
V-04	金子國義	1936-2015	最初の贈物	1967年	油彩、カンヴァス	
V-05	金子國義	1936-2015	双眼鏡	1967年	油彩、カンヴァス	
V-06	金子國義	1936-2015	少女	1964年	油彩、カンヴァス	
V-07	金子國義	1936-2015	オナニー・マシン	1968年	油彩、カンヴァス	
V-08	金子國義	1936-2015	はりもぐらの女	1970年	油彩、カンヴァス	
V-09	金子國義	1936-2015	姉妹	1971年	油彩、カンヴァス	
V-10	金子國義	1936-2015	手鏡	1968年	油彩、カンヴァス	
第1室 坂茂：ラ・セーヌ・ミュージカル						
k1-01	坂茂	1957-	ラ・セーヌ・ミュージカル 模型1/500	2017年	紙、アクリル、他	
k1-02	坂茂	1957-	ラ・セーヌ・ミュージカル 音楽ホール天井モックアップ	2017年	紙管	
k1-03	坂茂	1957-	ラ・セーヌ・ミュージカル 音楽ホール壁モックアップ	2017年	木	
k1-04	坂茂	1957-	ラ・セーヌ・ミュージカル ホワイエ壁モックアップ	2017年	ガラス	
k1-05	坂茂	1957-	ラ・セーヌ・ミュージカル 太陽光パネルモックアップ	2017年	ガラス、アルミ	
k1-06	坂茂	1957-	ラ・セーヌ・ミュージカル 音楽ホール椅子モックアップ	2017年	木、布、紙管	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
第2室 日本の人形作家たち						
k2-01	前 平田郷陽	1903-1981	明月	1950-1960年代頃	木、布	前期展示(11/18まで)
k2-02	後 平田郷陽	1903-1981	夕影		木、布	後期展示(11/19から)
k2-03	前 平田郷陽	1903-1981	夢	1950-1960年代頃	木、布	前期展示(11/18まで)
k2-04	後 平田郷陽	1903-1981	雀	1940年頃か	木、布	後期展示(11/19から)
k2-05	前 平田郷陽	1903-1981	松浦佐用比売	1971年	木、布	前期展示(11/18まで)
k2-06	後 平田郷陽	1903-1981	婦人	1954年頃	木、布	後期展示(11/19から)
k2-07	堀柳女	1897-1984	髪ほつれ		木、布(木目込人形)	
k2-08	鹿児島寿蔵	1898-1982	ポッピンを吹く南蛮童子	1936年	和紙染色金銀砂子貼装紙塑	
k2-09	鹿児島寿蔵	1898-1982	獅子かつぎ	1970年代頃か	紙塑、自染和紙	
第4室 ビカソとブラック						
k4-01	ジョルジュ・ブラック	1882-1963	二輪戦車	1955年	リトグラフ、紙(HC ed.75)	
k4-02	ジョルジュ・ブラック	1882-1963	アマリリス	1958年	エッチング、紙(HC ed.75)	
k4-03	パブロ・ピカソ	1881-1973	ランプの下の静物	1962年	リノカット、紙(12/50)	
k4-04	パブロ・ピカソ	1881-1973	3人の女性	1922年	エッチング、紙(ed.103)	
k4-05	パブロ・ピカソ	1881-1973	座る女と眠る女	1947年	リトグラフ、紙(1/50)	
k4-06	パブロ・ピカソ	1881-1973	ダビデとバテシバ	1949年	リトグラフ、紙(10/50)	
k4-07	パブロ・ピカソ	1881-1973	4人の裸婦と頭像 (『ヴォーラルのための連作集』82)	1934年	エッチング、ビュラン、紙	
可動展示室 第5室 ドーム						
k5-01	ドーム	1853-1909 1864-1930	とんぼ文花瓶	1904年頃	ガラス(金属酸化物の封入、ヴィトリフィカシオン、アプリケーション、エッチング、グラヴェール)	
k5-02	ドーム	1853-1909 1864-1930	魚藻文花瓶	1898年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、エナメル彩、アンテルカレール)	
k5-03	ドーム	1853-1909 1864-1930	すみれ文鉢	1905年頃	ガラス(エッチング、エナメル彩、金彩)	
k5-04	ドーム	1853-1909 1864-1930	とんぼ文ランプ	1904年頃	ガラス(金属酸化物の封入、ヴィトリフィカシオン、アプリケーション、エッチング、グラヴェール)、金属	
k5-05	ドーム	1853-1909 1864-1930	雪景文花瓶	1900-1907年頃	ガラス(エッチング、エナメル彩)	
k5-06	ドーム	1853-1909 1864-1930	樹林文花瓶	1920年頃	ガラス(スフレ、ヴィトリフィカシオン、エッチング)	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
第6室 香月泰男						
k6-01	香月泰男	1911-1974	折り	1961年	油彩、カンヴァス、板	
k6-02	香月泰男	1911-1974	押す人	1962(1964)年	油彩、カンヴァス	
k6-03	香月泰男	1911-1974	太陽	1958年	油彩、カンヴァス	
k6-04	香月泰男	1911-1974	母と子(母子像)	1968年	油彩、カンヴァス	
k6-05	香月泰男	1911-1974	風船売り	1960年	油彩、カンヴァス	
k6-06	香月泰男	1911-1974	梶	1959年	油彩、カンヴァス	
k6-07	香月泰男	1911-1974	椿花	1967年頃	油彩、カンヴァス	
k6-08	香月泰男	1911-1974	聖農	(1958~1960年代頃)	油彩、カンヴァス、板	
k6-09	香月泰男	1911-1974	巣鳩	1972年頃	油彩、板	
第7室 ガレの家具と西洋絵画						
k7-01	アンリ・マティス	1869-1954	青いチュチュの踊り子	1942年	油彩、カンヴァス	
k7-02	マルク・シャガール	1887-1985	紫色の花束	1970-1975年	油彩、カンヴァス	
k7-03	マリー・ローランサン	1883-1956	座る女	1940年代頃	油彩、カンヴァス	
k7-04	エミール・ガレ	1846-1904	風景文ネストテーブル		木、象嵌、ブロンズ	
k7-05	エミール・ガレ	1846-1904	オンベル文椅子	1902年頃	木	
k7-06	エミール・ガレ	1846-1904	椅子	1889年	木、象嵌	
k7-07	エミール・ガレ	1846-1904	椅子「桜」	1890年	木、象嵌	
k7-08	エミール・ガレ	1846-1904	楓文二段ティーテーブル		木、象嵌	
第8室 画家の愛した風景						
k8-01	カミーユ・ピサロ	1830-1903	バザンクール草原・秋	1894年	油彩、カンヴァス	
k8-02	モーリス・ド・ヴラマンク	1876-1958	森の中の家		油彩、カンヴァス	
k8-03	モーリス・ユトリロ	1883-1955	ムーラン・ド・ラ・ギャレット	1915年	油彩、カンヴァス	
k8-04	岡鹿之助	1898-1978	雪の無線中継所	1967年	油彩、カンヴァス	
k8-05	佐伯祐三	1898-1928	クラマールの午後	1925年頃	油彩、カンヴァス、パネル	
k8-06	荻須高德	1901-1986	ブルボン河岸	1936年	油彩、カンヴァス	

4

開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り



会期 2024年1月21日(日)～4月7日(日) 68日間
主催 一般社団法人下瀬美術館/中国新聞社
後援 大竹市教育委員会

概要 2024年3月、下瀬美術館は1周年を迎えた。下瀬美術館は下瀬ゆみ子館長のコレクションを保管、展示する施設で、なかでも大木平藏の雛人形、御所人形は、下瀬館長の母、下瀬静子の時代から集められてきたもので、コレクションの出発点ともいえる重要な位置づけの作品である。下瀬静子は関西にも縁が深く、大木平藏の丸平人形には憧れを持っていたようで、一つひとつの作品を慈しみながら集めてきた。

七世大木平藏が当主を務める「丸平大木人形店」は、江戸時代の創業から約250年の歴史を持つ京都の老舗人形店である。古くから、宮中や名家の人びとに愛され続け、谷崎潤一郎著『細雪』のなかにも丸平の雛人形が登場していた。

丸平の雛人形製作は頭師、手足師、髪付け師などそれぞれの職人による完全な分業制であり、大木平藏は人形製作全体の企画、管理、総仕上げを一貫して行っている。職人たちの心を尽くした熟練の技をその工程に結集させ、1つの人形を製作している。世の移り変わりの中でも、丸平大木人形店では、こうした伝統的な技術や製作方法を守り続けてきた。

本展では、七世大木平藏が得意とした華麗な能人形や愛らしい幼児の姿の御所人形などを展示した。下瀬家の雛人形は、自宅の広間に形式にとらわれず自由に飾られてきたが、本展ではその雰囲気味わっていただけるよう展示した。御所人形に囲まれた雅な雛飾りを見ながら、下瀬美術館のひな祭りを楽しんでいただいた。

雛人形は節句を祝う人形として愛でられてきたが、近代では平田郷陽や辻村寿三郎など、鑑賞のための創作人形も発展してきた。可動展示室ではそうした創作人形を含む下瀬美術館の多彩なコレクションもあわせてご覧いただいた。

印刷物 チラシ(A4)20,000枚
ポスター(B2)500枚
展示目録(A3 2つ折り、8頁)8,000部
観覧者数 14,474人 *1日平均213人



関連事業

①講演会「能を観る－御所人形を切口として」

内容 20年来の能の愛好者である山下氏が、能の演目を題材とした御所人形（能人形）と実際の演能映像を参照しながら、能の楽しみ方を所作や謡を交えて伝えた。

日時 2024年1月27日（土）14：00～15：00

参加費 無料

参加者 34人

講師 山下寿水（広島県立美術館主任学芸員）

会場 エントランス棟多目的スペース



②バレンタインワークショップ「ハートフルサシェをつくろう」

日時 2月11日（日）10：00/11：00/14：00/15：00

会場 エントランス棟多目的スペース

参加費 500円

参加者 41人

③ワークショップ「流し雛を作ろう」

日時 2月17日（土）10:00～11:30

参加費 無料

対象 小学生以上（小学生は必ず保護者同伴）

参加者 22人

講師 大竹市青少年育成市民会議の皆さま

会場 エントランス棟多目的スペース



④出前講座「美術館へ行こう！－下瀬美術館の楽しみ方」

日時 2月25日（日）10：00～11：30

場所 栄公民館

参加費 無料

参加者 19名



⑤特別ギャラリートーク

講師 大木やよひ（丸平大木人形店資料室丸平文庫）

日時 3月30日（土）11：00～11：50/14：00～14：50

参加費 無料

参加者 50人

⑥ギャラリートーク

会場 企画展示室

日時 毎月第1、第3土曜日14：00～14：30

参加者 2月3日_23人、2月17日_13人

3月2日_15人、3月16日_16人

4月6日_22人

掲載記事 中国新聞(1/7、1/19、1/20、1/29、2/2、2/9、2/16、
2/22、3/1、3/8、3/15、3/20、3/22、3/29、4/1)
読売新聞ひろしま県民情報(1/10)
Tj Hiroshima月刊タウン情報ひろしま2月号(1/25)
tomatoトマト広島版2月号(2/1)
KURE:BAN 2024年3月No.444(2/25)
Wink 2024年3月No.464(2/23)
山口トライアングル2024年3月Vol.485(2/28)
Paletteパレットvol.22 2024 spring(3/1)
大人の日帰り旅中国四国(4/1)
広報おたけ4月号(4/1)

テレビ報道等

FMはつかいち：昼なんじゃけん！761(1/30)
広島テレビ：丸ごと！好奇心♡知っとる！？(3/1)
ホームテレビ：ピタニューググっと。瀬戸内(3/15)

[展示目録] 開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
I 華麗な能人形たち						
I-01	七世大木平藏製	1942-	御所人形 石橋	1978年以降	木、布	
I-02	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 「三番叟」 一尺六寸	1978年以降	木、布	
I-03	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 「竹生島」 九寸	1978年以降	木、布	三軀一組
I-04	作者不詳		陣幕 御簾の柄		布	
I-05	七世大木平藏製	1942-	御所人形 橋弁慶	昭和～平成時代	木、布	
I-06	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 「鶴亀」	昭和～平成時代	木、布	三軀一組
I-07	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 狂言 「福の神」	1978年以降	木、布	
I-08	七世大木平藏製	1942-	能人形 本狂 狂言 「未廣狩」	1978年以降	木、布	二軀一組
II 下瀬美術館のおひなさまと御所人形たち						
II-01	七世大木平藏製	1942-	金屏風	昭和～平成時代	紙本金箔	
II-02	六世大木平藏製	1913-1994	黒御袍立像御雛	1975年頃	木、布	二軀一組
II-03	七世大木平藏製	1942-	雪洞	昭和～平成時代	木、布、漆	二口一組
II-04	七世大木平藏製	1942-	三宝、瓶子、口花	昭和～平成時代	木、紙、金属	
II-05	七世大木平藏製	1942-	本狂 狛曳 八寸	1978年以降	木、布	
II-05	七世大木平藏製	1942-	本狂 狛曳 八寸	1978年以降	木、布	
II-06	七世大木平藏製	1942-	狗宮	昭和～平成時代	木、紙、着色	二口一組
II-07	七世大木平藏製	1942-	御所人形 犬遊び	1975年頃	木、布	二軀一組
II-08	七世大木平藏製	1942-	結び五人官女	1978年以降	木、布	五軀一組
II-09	七世大木平藏製	1942-	八人楽人	昭和～平成時代	木、布	八軀一組
II-10	七世大木平藏製	1942-	花桶	昭和～平成時代	木、漆	二口一組
II-11	七世大木平藏製	1942-	本狂 三猿大名	1978年以降	木、布	三軀一組
II-12	七世大木平藏製	1942-	御所人形 獅子舞	1975年頃	木、布	
II-13	七世大木平藏製	1942-	本行 蘭陵王	1970年代以降	木、布	大太鼓二口が付属
II-14	七世大木平藏製	1942-	三面揃	昭和～平成時代	木、漆、布、金属	三口一組
II-15	七世大木平藏製	1942-	三弦	1978年以降	木、布、象牙	四口一組
II-16	七世大木平藏製	1942-	雅楽 楽器揃	1978年以降	木、漆	九口一組
II-17	七世大木平藏製	1942-	御所車	昭和～平成時代	木、漆	
II-18	七世大木平藏製	1942-	御所人形 宝船曳	昭和～平成時代	木、布	
II-19	七世大木平藏製	1942-	御所人形 酉烏帽子	昭和～平成時代	木、布	
II-20	七世大木平藏製	1942-	御所人形 立児 衣裳着 男女 七寸	昭和～平成時代	木、布	二軀一組
II-21	七世大木平藏製	1942-	御所人形 雅楽迦陵頻と胡蝶	昭和～平成時代	木、布	二軀一組
II-22	七世大木平藏製	1942-	御所人形 這い子	1975年頃	木、布	
II-23	七世大木平藏製	1942-	御所人形 這い子(小)	1975年頃	木、布	
II-24	七世大木平藏製	1942-	御所人形 仙桃	昭和～平成時代	木、布	
II-25	七世大木平藏製	1942-	御駕籠	昭和～平成時代	木、漆	
II-26	七世大木平藏製	1942-	久寿玉		紙、布、紐	
II-27	七世大木平藏製	1942-	御所人形 貝遊び	1975年以降	木、布	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
II-28	七世大木平藏製	1942-	貝桶	1975年以降	貝	
II-29	七世大木平藏製	1942-	源氏絵 貝桶	昭和時代	木、貝、着色	
II-30	七世大木平藏製	1942-	御所人形 立児 衣裳着 男女 五寸	1975年頃	木、布	二躯一組
II-31	七世大木平藏製	1942-	御所人形 高砂	1975年頃	木	二躯一組
II-32	七世大木平藏製	1942-	本狂 五節舞姫	昭和～平成時代	木、布	
II-33	七世大木平藏製	1942-	短檠	昭和～平成時代	木、漆、金属	
II-34	七世大木平藏製	1942-	本狂 歌留多遊び	1978年以降	木、布、紙	三躯一組
II-35	七世大木平藏製	1942-	三棚	昭和～平成時代	木、漆	
II-36	七世大木平藏製	1942-	十三揃	昭和～平成時代	木、漆、布、紙、金	一揃
II-37	七世大木平藏製	1942-	針箱	昭和～平成時代	木、漆、紙、金属	一揃
II-38	七世大木平藏製	1942-	御離道具(御殿火鉢他)	昭和～平成時代	木、漆、布、紙、金	一揃
II-39	七世大木平藏製	1942-	野弁当・茶弁当	昭和～平成時代	木、漆、金属、布	一揃
II-40	七世大木平藏製	1942-	茶道具	昭和～平成時代	木、漆、金属、陶器、布	一揃
II-41	七世大木平藏製	1942-	香道具	昭和～平成時代	木、陶器、漆、紙、布	一揃
II-42	七世大木平藏製	1942-	御所人形 軍配持ち	1975年頃	木、布	
II-43	七世大木平藏製	1942-	賀茂人形 十二支行列	1994年頃	木、布	十二躯一組
II-44	七世大木平藏製	1942-	木彫彩色御所人形 賀茂競馬	昭和～平成時代	木	二躯一組
II-45	六世大木平藏製	1913-1994	本狂 桃太郎 九寸	1975年頃	木、布	
II-45	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 雉子	1975年頃	木	桃太郎人形付属
II-45	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 犬	1975年頃	木	桃太郎人形付属
II-45	六世大木平藏製	1913-1994	宝車	1975年頃	木	桃太郎人形付属
II-45	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 猿	1975年頃	木	桃太郎人形付属
II-45	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 鬼	1975年頃	木	桃太郎人形付属
II-45	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 鬼	1975年頃	木	桃太郎人形付属
II-45	六世大木平藏製	1913-1994	木彫彩色 鬼	1975年頃	木	桃太郎人形付属

III 衣裳人形と花見人形たち

III-01	六世大木平藏製	1913-1994	おぼこ衣裳人形 舞妓	昭和時代	木、布	
III-02	七世大木平藏製	1942-	木彫三ツ折レ 市松人形	1978年以降	木、布	夏衣装が付属
III-03	作者不詳		水屋		木	
III-04	六世大木平藏製	1913-1994	おぼこ衣裳人形 お福の花嫁 七寸	昭和時代	木、布	
III-05	作者不詳		几帳 桜		布	
III-06	七世大木平藏製	1942-	花見人形	昭和時代	木、紙、着色	二十四躯一組
III-06	七世大木平藏製	1942-	桜	昭和時代	木、紙	花見人形に付属

可動展示室 第1室 日本の人形

k1-01	平田郷陽	1903-1981	松浦佐用比売	1971年	木、布	
k1-02	平田郷陽	1903-1981	饅遊	1950-1960年代頃	木、布	
k1-03	平田郷陽	1903-1981	夢	1950-1960年代頃	木、布	
k1-04	辻村寿三郎	1933-	花の宴より 阿国	1996年	布	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
k1-05	辻村寿三郎	1933-	南北五人女より 桜姫	2001年	布	
k1-06	辻村寿三郎	1933-	シルクドール	2005年	布	
可動展示室 第2室 子どもへのまなざし						
k2-01	ポール・アイズピリ	1919-2016	花を持つ少女	20世紀	油彩、カンヴァス	
k2-02	ビエール＝オーギュスト・ルノー	1841-1919	少女		油彩、カンヴァス	
k2-03	藤田嗣治	1886-1968	鳥と少女	1956年	油彩、カンヴァス	
k2-04	マリー・ローランサン	1883-1956	二人の少女	1930年頃	水彩、紙	
k2-05	佐伯祐三	1898-1928	少年時代のジャック・ブナバンチュール	1925年頃	油彩、カンヴァス	
k2-06	香月泰男	1911-1974	母と子(母子像)	1968年	油彩、カンヴァス	
k2-07	脇田和	1908-2005	姉弟	1965年	油彩、カンヴァス	
k2-08	岸田劉生	1891-1929	村娘図	1920年	水彩、紙	
可動展示室 第3室 エミール・ガレ						
k3-01	エミール・ガレ	1846-1904	ニオイアラセイトウ花器	1900年頃	ガラス(被せガラス、気泡の封入、金属箔の挟み込み、マルケトリ、グラヴェール)	
k3-02	エミール・ガレ	1846-1904	ハートの涙(ケマンソウ)	1902年	ガラス(被せガラス、グラヴェール、マルケトリ、アプリケーション)	
k3-03	エミール・ガレ	1846-1904	カラフェとグラス	1889年	ガラス(エッチング、エナメル彩、金彩)	
k3-04	エミール・ガレ	1846-1904	ゴブレット「ジャック・カロの人物画」	1867-1876年頃	ガラス(グラヴェール)	
k3-05	エミール・ガレ	1846-1904	蝶文花瓶	1900年頃	ガラス(被せガラス、気泡の封入、マルケトリ、グラヴェール)	
k3-06	エミール・ガレ	1846-1904	雪中松文花器	1897-1900年頃	ウランガラス(被せガラス、エッチング、エナメル彩)	
可動展示室 第4室 マイセンとビスク・ドール						
k4-01	マイセン窯	1700年代～	物乞に扮した天使	1824-1923年頃	磁器	
k4-02	マイセン窯	1700年代～	建築	19世紀後半	磁器	
k4-03	マイセン窯	1700年代～	天文	19世紀後半	磁器	
k4-04	マイセン窯	1700年代～	音楽	19世紀後半	磁器	
k4-05	マイセン窯	1700年代～	彫刻	19世紀後半	磁器	
k4-06	マイセン窯	1700年代～	ぶどう狩り	1745年頃	磁器	
k4-07	マイセン窯	1700年代～	時計	18世紀中頃	磁器	
k4-08	エミール・ジュモー	1843-1910	ビスク・ドール(EJ)	1881-1884年頃	磁器、布	
k4-09	エミール・ジュモー	1843-1910	ビスク・ドール(トリストまたはロングフェイス)	1879-1886年頃	磁器、布	
k4-10	エミール・ジュモー	1843-1910	ビスク・ドール	1892-1899年頃	磁器、布	
可動展示室 第5室 ドーム						
k5-01	ドーム	1853-1909 1864-1930	風景文花瓶	1899年頃	ガラス(エッチング、アンテルカレール)	
k5-02	ドーム	1853-1909 1864-1930	とんぼ文花瓶	1904年頃	ガラス(金属酸化物の封入、ヴェトリフィケーション、アプリケーション、エッチング、グラヴェール)	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質技法	備考
k5-03	ドーム	1853-1909 1864-1930	すみれ文鉢	1905年頃	ガラス(エッチング、エナメル彩、金彩)	
k5-04	ドーム	1853-1909 1864-1930	魚藻文花瓶	1898年頃	ガラス(被せガラス、エッチング、エナメル彩、アンテルカレール)	
k5-05	ドーム	1853-1909 1864-1930	雪景文ランプ	1900年以降	ガラス(エッチング、エナメル彩)、金属	
k5-06	ドーム	1853-1909 1864-1930	とんぼ文ランプ	1904年頃	ガラス(金属酸化物の封入、ヴィトリフィカシオン、アプリケーション、エッチング、グラヴェール)、金属	
k5-07	ドーム	1853-1909 1864-1930	木の実文花瓶	1904-1907年頃	ガラス(ヴィトリフィカシオン、アプリケーション、エッチング、グラヴェール)	
k5-08	ドーム	1853-1909 1864-1930	雪景文花瓶	1900-1907年頃	ガラス(エッチング、エナメル彩)	
可動展示室 第6室 動物の表現						
k6-01	マイセン窯	1700年代～	スパニエル犬	1774-1813年	磁器	
k6-02	藤田嗣治	1886-1968	メイ	1939年	油彩	
k 6-03	山口薫	1907-1968	クマ 子供の頃	1962年	油彩、カンヴァス	
k6-04	エミール・ガレ	1846-1904	犬型置物	1865-1890年代	陶	
k6-05	エミール・ガレ	1846-1904	猫型置物	1865-1890年代	陶	
k6-06	加山又造	1927-2004	風	1982年	紙本着色	
k6-07	加山又造	1927-2004	音	1982年	紙本着色	
k6-08	藪内佐斗司	1953-	猫	(1998-2000年頃)	ブロンズ	
k6-09	三沢厚彦	1961-	猫(Cat2001-03)	2001年	木、着色	
k6-10	三沢厚彦	1961-	アニマル1998-07	1998年	粘土、木、粘着紙、アクリル	
可動展示室 第7室 ガレの家具と西洋絵画						
k7-01	エミール・ガレ	1846-1904	オンベル文椅子	1902年頃	木	
k7-02	エミール・ガレ	1846-1904	蝶文サイドテーブル		木、象嵌	
k7-03	エミール・ガレ	1846-1904	とんぼ文キャビネット	1900年頃	木、象嵌、ブロンズ	
k7-04	ガレ	1904-1931	キャビネット		木、象嵌	
k7-05	カミーユ・ピサロ	1830-1903	バザンクール草原・秋	1894年	油彩、カンヴァス	
k7-06	アンリ・マティス	1869-1954	青いチュチュの踊り子	1942年	油彩、カンヴァス	
k7-07	ジョルジュ・ルオー	1871-1958	サーカス	1925-1929年	油彩、カンヴァス	
可動展示室 第8室 月明りの風景						
k8-01	西田俊英	1953-	靨の月	2021年	紙本着色	
k8-02	上村淳之	1933-	月明	2000年代頃	紙本着色	
k8-03	平山郁夫	1930-2009	月光巖島	1995年	紙本着色	
k8-04	浅野陽	1923-1997	月と金星 陶板	1990年頃	陶	
k8-05	平田郷陽	1903-1981	明月	1950-1960年代頃	木、布	
k8-06	ジョアン・ミロ	1893-1983	マドレーヌ期の人びと	1958年	エッチング、アクアチント、紙(3/75)	
k8-07	マルク・シャガール	1887-1985	屋根	1956年	リトグラフ、紙(24/75)	
k8-08	マルク・シャガール	1887-1985	トゥルネル河岸(『パリの眺め』)	1960年	リトグラフ、紙(8/10)	

1 刊行物

美術館リーフレット(A4 2つ折り)

初版 20,000部(2023年2月24日)
 第2版 20,000部(2023年11月21日)



四谷シモンと金子國義展覧会図録(B5版、96頁)2,000部

目次

- ごあいさつ
- 『あどけない誘惑展』によせて 四谷シモン
- 四谷シモン
- 金子國義
- 四谷シモンと金子國義について
- 年表
- 作品リスト

展示目録

開館記念展おひなさまと近代美術
 —丸平の人形からガレ、マチスまで
 展示目録(A3 2つ折り、8頁)9,000部

エミール・ガレ
 —アール・ヌーヴォーの花器と家具
 展示目録(A3 2つ折り、8頁)14,000部

四谷シモンと金子國義
 —あどけない誘惑
 展示目録(A3 2つ折り、12頁)10,000部

開館1周年記念 下瀬美術館のひな祭り
 展示目録(A3 2つ折り、8頁)8,000部



2 講演会・ギャラリートーク実施一覧

期日	時間	展覧会名	講座内容	講師	参加人数
3月4日	13:30-14:00	「開館記念展 おひなさまと近代美術 —丸平の人形からガレ、マティスまで」	丸平人形 特別ギャラリートーク	大木やよひ (丸平大木人形店資料室丸平文庫)	23
3月4日	15:00-15:30	「開館記念展 おひなさまと近代美術 —丸平の人形からガレ、マティスまで」	丸平人形 特別ギャラリートーク	大木やよひ (丸平大木人形店資料室丸平文庫)	20
10月1日	11:00-11:30	「四谷シモンと金子國義 —あどけない誘惑」	四谷シモン 特別ギャラリートーク	四谷シモン	110
1月27日	14:00-15:00	「開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り」	能を観る —御所人形を切り口として	山下寿水 (広島県立美術館主任学芸員)	34
3月30日	11:00-11:50	「開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り」	丸平人形 特別ギャラリートーク	大木やよひ (丸平大木人形店資料室丸平文庫)	25
3月30日	14:00-14:50	「開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り」	丸平人形 特別ギャラリートーク	大木やよひ (丸平大木人形店資料室丸平文庫)	25

3 ワークショップ実施一覧

期日	時間	講座名	講師	参加人数
4月15日	10:00-11:30	「貝合わせを作って遊ぼう」	担当学芸員	6
4月15日	13:30-15:00	「貝合わせを作って遊ぼう」	担当学芸員	9
7月2日	11:00-16:00	「大竹手すき和紙の短冊を飾って七夕かざりを作ろう」	担当学芸員	80
7月29日	10:00-12:00	「大竹手すき和紙でハガキを作ろう」	おたけ手すき和紙保存会	14
7月29日	13:30-15:30	「大竹手すき和紙でハガキを作ろう」	おたけ手すき和紙保存会	16
8月12日	11:00-16:00	「夏休み子ども工作ワークショップ紙管をのぞいて広がる世界」	担当学芸員	85
11月1日-30日	開館日終日	「下瀬美術館をもっと楽しもう！ミュージアムワークシート」	担当学芸員	305
12月8日	10:00-12:00	「クリスマスを彩るポタニカルキャンドル」	担当学芸員	4
	13:30-15:30	「クリスマスを彩るポタニカルキャンドル」	担当学芸員	4
12月9日	10:00-12:00	「クリスマスを彩るポタニカルキャンドル」	担当学芸員	7
	13:30-15:30	「クリスマスを彩るポタニカルキャンドル」	担当学芸員	6
2月11日	10:00-16:00	「バレンタインワークショップハートフルサシェをつくろう」	担当学芸員	41
2月17日	10:00-11:30	流し雛をつくろう	大竹市青少年育成市民会議	22

4 鑑賞サポートプログラム実施一覧

期日	展覧会名	実施種別	講座内容	参加人数
3月25日		定期開催	ギャラリートーク	10
4月4日	「開館記念展 おひなさまと近代美術 —丸平の人形からガレ、マティスまで」	事前申込み	ギャラリートーク	43
4月22日		定期開催	ギャラリートーク	23
5月20日		定期開催	ギャラリートーク	8
5月23日		事前申込み	ギャラリートーク	19
5月24日		事前申込み	ガイドランス	11
5月27日		事前申込み	ギャラリートーク	24
5月28日		事前申込み	ガイドランス	23
5月30日		事前申込み	ガイドランス	25
6月3日		定期開催	ギャラリートーク	10
6月15日		事前申込み	ガイドランス	13
6月17日		事前申込み	ガイドランス	40
6月17日		定期開催	ギャラリートーク	17
7月1日		定期開催	ギャラリートーク	7
7月4日		事前申込み	ギャラリートーク	10
7月8日		事前申込み	ガイドランス	25
7月11日		事前申込み	ガイドランス	13
7月12日		事前申込み	ギャラリートーク	15
7月12日		事前申込み	ガイドランス	32
7月15日	「エミール・ガレ —アールヌーヴォーの花器と家具」	事前申込み	ギャラリートーク	6
7月15日		事前申込み	ガイドランス	8
7月15日		定期開催	ギャラリートーク	25
7月19日		事前申込み	ガイドランス	25
7月20日		事前申込み	ガイドランス	11
7月22日		事前申込み	ガイドランス	26
7月23日		事前申込み	ガイドランス	23
7月29日		事前申込み	ガイドランス	10
8月3日		事前申込み	ガイドランス	11
8月4日		事前申込み	ガイドランス	26
8月4日		事前申込み	ガイドランス	17
8月5日		定期開催	ギャラリートーク	17
8月19日		定期開催	ギャラリートーク	15
8月26日		事前申込み	ギャラリートーク	7
9月2日		定期開催	ギャラリートーク	25
9月9日		事前申込み	ガイドランス	37
9月9日		事前申込み	ギャラリートーク	38

期日	展覧会名	実施種別	講座内容	参加人数
9月10日		事前申込み	ギャラリートーク	42
9月10日		事前申込み	ギャラリートーク	12
9月10日		事前申込み	ギャラリートーク	12
9月10日		事前申込み	ガイドダンス	41
9月12日		事前申込み	ガイドダンス	23
9月15日		事前申込み	ギャラリートーク	35
9月15日	「エミール・ガレ —アールヌーヴォーの花器と家具」	事前申込み	ガイドダンス	18
9月16日		定期開催	ギャラリートーク	30
9月20日		事前申込み	ガイドダンス	33
9月20日		事前申込み	ガイドダンス	45
9月22日		事前申込み	ガイドダンス	35
9月23日		定期開催3催7	ギャラリートーク	25
9月24日		事前申込み	ギャラリートーク	12
10月4日		事前申込み	ギャラリートーク	8
10月7日		事前申込み	ガイドダンス	40
10月7日		定期開催	ギャラリートーク	11
10月8日		事前申込み	ガイドダンス	15
10月10日		事前申込み	ガイドダンス・ギャラリートーク	36
10月11日		事前申込み	ギャラリートーク	5
10月17日		事前申込み	ガイドダンス	25
10月19日		事前申込み	ガイドダンス	17
10月21日		定期開催	ギャラリートーク	15
10月24日		事前申込み	ギャラリートーク	34
10月29日		事前申込み	ガイドダンス	24
10月29日	「四谷シモンと金子國義—あどけない誘惑」	事前申込み	ガイドダンス	21
10月31日		事前申込み	ガイドダンス	15
11月2日		事前申込み	ガイドダンス	41
11月4日		定期開催	ギャラリートーク	10
11月5日		事前申込み	ギャラリートーク	20
11月7日		事前申込み	ガイドダンス	41
11月8日		事前申込み	ガイドダンス・ギャラリートーク	21
11月10日		事前申込み	ガイドダンス	38
11月10日		事前申込み	ガイドダンスギャラリートーク	40
11月10日		事前申込み	ガイドダンス	20
11月11日		事前申込み	ガイドダンス	18
11月11日		事前申込み	ギャラリートーク	12

期日	展覧会名	実施種別	講座内容	参加人数
11月12日		事前申込み	ガイドانس・ギャラリートーク	34
11月14日		事前申込み	ガイドانس	21
11月15日		事前申込み	ガイドانس	37
11月16日		事前申込み	ガイドانس	25
11月18日		事前申込み	ガイドانس	25
11月18日		事前申込み	ガイドانس	34
11月18日		定期開催	ギャラリートーク	13
11月21日		事前申込み	ガイドانس	39
11月21日		事前申込み	ガイドانس・ギャラリートーク	24
11月22日		事前申込み	ギャラリートーク	26
11月23日		事前申込み	ガイドانس	43
11月23日		事前申込み	ギャラリートーク	40
11月23日		事前申込み	ガイドانس	36
11月24日		事前申込み	ガイドانس	41
11月24日		事前申込み	ガイドانس	30
11月24日	「四谷シモンと金子國義—あどけない誘惑」	事前申込み	ガイドانس	47
11月25日		事前申込み	ガイドانس	7
11月26日		事前申込み	ガイドانس	13
11月28日		事前申込み	ガイドانس	15
11月30日		事前申込み	ガイドانس	25
12月2日		事前申込み	ガイドانس	45
12月2日		定期開催	ギャラリートーク	10
12月3日		事前申込み	ガイドانس	21
12月6日		事前申込み	ガイドانس・ギャラリートーク	24
12月9日		事前申込み	ガイドانس	25
12月15日		事前申込み	ギャラリートーク	10
12月16日		事前申込み	ギャラリートーク	25
12月16日		事前申込み	ガイドانس	15
12月16日		定期開催	ギャラリートーク	10
1月2日		事前申込み	ギャラリートーク	7
1月6日		定期開催	ギャラリートーク	30
1月23日		事前申込み	ガイドانس	5
1月23日		事前申込み	ガイドانس	31
2月3日	「開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り」	定期開催	ギャラリートーク	23
2月6日		事前申込み	ギャラリートーク	2
2月10日		事前申込み	ギャラリートーク	5

期日	展覧会名	実施種別	講座内容	参加人数
2月14日		事前申込み	ギャラリートーク	5
2月17日		定期開催	ギャラリートーク	13
2月23日		事前申込み	ギャラリートーク	17
2月29日		事前申込み	ガイドランス	20
3月2日		事前申込み	ガイドランス	27
3月2日		定期開催	ギャラリートーク	15
3月6日		事前申込み	ガイドランス	11
3月8日	「開館一周年記念 下瀬美術館のひな祭り」	事前申込み	ガイドランス	21
3月13日		事前申込み	ガイドランス	17
3月15日		事前申込み	ガイドランス	20
3月16日		定期開催	ギャラリートーク	16
3月19日		事前申込み	ガイドランス	21
3月28日		事前申込み	ガイドランス	22
3月29日		事前申込み	ガイドランス	28
4月6日		定期開催	ギャラリートーク	22

5 スクールプログラム実施一覧

期日	学校	実施内容	児童・生徒数	引率教員数	利用者数
4月28日	玖波小学校	美術館ガイダンス	97	13	110
5月14日	広島市立基町高等学校	美術館ガイダンス	112	8	120
5月26日	広島西特別支援学校高等部3年	リモート鑑賞鑑賞補助	1	2	2
7月14日	広島西特別支援学校中等部	リモート鑑賞鑑賞補助	3	2	2
8月4日	玖波中学校美術部	美術館ガイダンス	7	1	8
10月11日	玖波中学校	美術館ガイダンス	58	12	70
10月25日	広島西特別支援学校中等部	修学旅行鑑賞補助	2	4	6
2月10日	広島県立祇園北高校写真部	解説ツアー	12	1	13

6 職場体験 中学2年生2人参加

	10:00～12:00	13:00～15:00	15:00～15:30	
8月	23日	美術館見学と美術館の仕事内容ガイダンス	看視業務の補助	一日の反省と活動記録記入
	24日	受付業務の補助	図書の整理作業 (分類番号の付番、ラベル添付、配架)	一日の反省と活動記録記入
	25日	エミール・ガレ展鑑賞会	四谷シモン展印刷物の発送業務の補助	一日の反省と活動記録記入

7 出張講座

「学芸員の仕事」

場所	大竹市立玖波中学校
講師	清水容子（当館学芸員）
日時	2023年6月16日 10:45～12:00
内容	美術館の仕事区分、学芸員の仕事、学芸員になるためにすることを紹介し、質疑応答を行った。

「美術館へ行こう！下瀬美術館の楽しみ方」

場所	大竹市栄公民館
講師	松浦萌子(当館学芸員)
日時	2024年2月25日 10:00～11:30
内容	美術館のエントランス棟や可動展示室などのユニークな建築とともに、1月21日から開催された「下瀬美術館のひな祭り」展の見どころを紹介し、下瀬美術館の楽しみ方を提案した。

8 音声ガイド（スマートフォン利用）

展覧会	会期	ガイド作品数	利用者数 (日本語)	利用者数 (英語)	再生回数 (日本語)	再生回数 (英語)
おひなさまと近代美術	2023年3月1日～5月7日	15	2698		15382	
エミール・ガレ	5月14日～9月24日	15	4337	112	29304	639
四谷シモンと金子國義	10月1日～2024年1月14日	15	1668	87	10856	486
下瀬美術館のひな祭り	1月21日～4月7日	15	1430	76	6204	181

岸田劉生作《村娘図》(1920年3月15日制作)について

谷藤史彦



本稿は、下瀬美術館所蔵の水彩《村娘図》(1920年3月15日制作)が岸田劉生(1891-1929)の作品の中でどのような位置付けにあるのか、どのような特徴を秘めていたのかを明らかにする。

一般に岸田の画業は、その居住した地域によって、銀座時代(1907-1913年)、代々木・駒沢時代(1913-1917年)、鵜沼時代(1917-1923年)、京都・鎌倉時代(1923-1929年)の4つないし6つに区分され、論じられることが多い。

この区分からいうと本作は、鵜沼時代の半ばに描かれた作品といえる。

岸田は、肺結核(後に誤診とされる)と診断され、1917年2月に転地療養のために神奈川県高座郡藤沢町大字鵜沼(現・藤沢市)に移り、1923年まで過ごした。ここでの5年間は、国の重要文化財となる《麗子微笑》など名作を最も多く生んだ黄金時代ともいえる時代であった。

また、岸田の絵画の特徴を考える時、大きく3つの傾向に分けることができる。

第一は、ポスト印象派的な傾向である。これは、ゴッホやセザンヌの影響をダイレクトに受けていた1912年頃から示す画風で、武者小路実篤やバーナード・リーチといった友人たちの肖像画に見られる。

第二は、写実的傾向である。これは、1915年頃から見られる傾向で、レンブラントやルーベンスの影響を受けて始まり、やがてデューラーの細密画の影響を受けて研究を進め、独自の「実在の神秘」

を求めた時期の表現である。

第三は、東洋的な傾向である。これは、1920年頃から始まる傾向で、和辻哲郎との交友から中国美術や近世初期風俗画(岸田のいう「初期肉筆浮世絵」、「又兵衛風」)などの影響を受けるようになり、デフォルメされた表現方法も使うようになった。

つまり本作は、鶴沼時代のなかでも、第二の写実的傾向から、第三の東洋的な傾向が入り始めた時期への移行期の作品といえるものである。本研究では、その東洋的な傾向がどのようなものなのかも確認したい。

さらに、本作は鶴沼の自宅近所に住んでいた麗子の3歳年長の娘、於松を描いた作品である。この鶴沼時代に、娘の麗子像と於松像を盛んに描き、名作を多く生んでいる。

これら麗子像と於松像を年代順に見ていき、本作の特徴を探っていきたい。

鶴沼時代(1917-1923年)とは

鶴沼時代に至るまでの岸田の足取りを辿ってみたい。

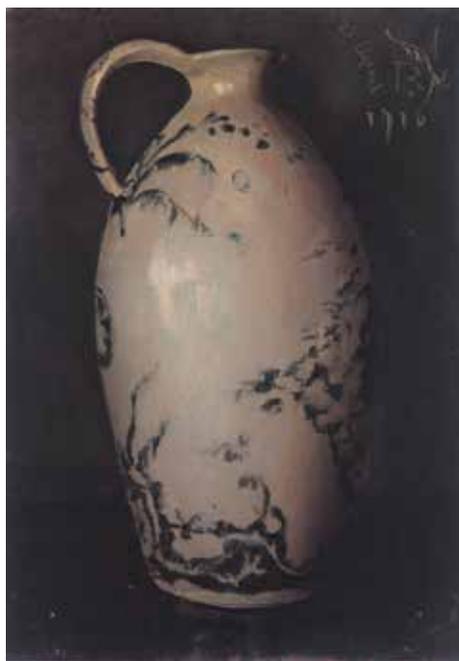
岸田は、1891年に東京・銀座に父、吟香(1833-1905)と母、勝子の間の14人のうち9番目の子として生まれた。父は、有名な実業家で、水目薬を製造販売する楽善堂精錡水本舗を経営していた。眼を患った時、医師で宣教師のジェームス・カーティス・ヘボンを訪ねて治療を受け、それを契機に水目薬の製造法を伝授された。また、ヘボンの行った日本最初の和英辞典である『和英語林集成』の編纂・出版も手伝っている。

岸田は、幼い頃より絵を描くことが好きで、1906年、15歳の時に画家になるために東京高等師範学校附属中学校を中退したほどである。1908年、白馬会葵橋洋画研究所(赤坂)へ入門して黒田清輝に師事、外光派風の作風を吸収する。

ところが1911年、武者小路実篤らが創刊した雑誌『白樺』に掲載されたゴッホやセザンヌ、ゴーギャン、マチスらの作品に接して大きな衝撃を受ける。その影響で、主観的な色彩や単純化された線を使って大胆な銀座や築地の風景画を描くようになる。

そして1913年に大久保(新宿)から代々木に移って以降、友人たちの肖像画を多く制作する。それらの肖像画には、ポスト印象派風から徐々に写実的な表現に移行する足跡が見られる。1914年頃から、雑誌『白樺』などで紹介されたレンブラントやミケランジェロ、デューラーなどの西洋古典絵画に触れ、その精神性に感銘を受けるとともに、次第に細密な写実的傾向の作品を描くようになる。

ただ戸外での長時間に及ぶ制作は体に堪えたようで、体調を崩し肺結核と診断された。以後、戸外写生を禁じられ、室内で静物画の制作に取り組むようになる。岸田は、静物画を雨の日に仕方なく描くものという認識だったが、1916年に《壺》を描いて手応えを感じ、《二つの林檎》を描くに及んで「実在の神秘」に迫ることができたと確信したようだ。



《壺》1916年、下関市立美術館

ここで「実在の神秘」について、少し触れたい。岸田は、林檎の絵を描く中で「自分の道は写実の神秘派とよばれてもいゝという事を思った。写実を追求して、無形の神秘的な幽明境に達するのが自分の道の気がした」(『岸田劉生全集第二巻』岩波書店、526頁)と記している。また同様の意味で「内の美」という言葉も使う。

「この畫〔林檎の絵〕をかいている僕は、或る一転機を得た。それはリアリストとして一步深く入る事が出来たのだ。内の美をよりはっきりと生



《静物(赤き林檎二個とビンと茶碗と湯呑)》1917年、ふくやま美術館

かせたといふ自覚も得た。自己の中の最高の美に一步近づいた」(同書、525頁)として、「内の美」と「最高の美」は、ほぼ同義語として使われていると考えられる。

岸田は、1916年に代々木から玉川村(現、世田谷区深沢)に移り、さらに翌1917年2月に本格的な転地療養のために神奈川県高座郡藤沢町大字鶴沼(現・藤沢市)の佐藤別荘に引越し、同年6月には同地の洋館付きの松本別荘に転居した。ここには関東大震災の起こる1923年9月まで住むことになる。

この鶴沼時代に描いたものに、静物画、風景画、人物画(とくに麗子像と於松像)、日本画があり、名品とされるものは、静物画と人物画に多い。

静物画としては、《静物(湯呑と茶碗と林檎三つ)》(1917年、大阪中之島美術館)、《静物(赤き林檎二個とビンと茶碗と湯呑)》(1917年、ふくやま美術館)、《静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)》(1918年、福島県立美術館)、《静物-赤りんご三個、茶碗、ブリキ罐、匙》(1920年、大原美術館)などがある。岸田が描いたのは、机の上に並べた林檎やバーナード・リーチの陶器やガラスのビンの静物画であった。

鶴沼時代の写実は、代々木・駒沢時代の写実とは少し違う。岸田の言葉で言うと「実在の神秘」、「内の美」というものから、「写実の欠除」、「クラシックの美」という言い方に変化している。対象を見た通り忠実に再現しようという写実から、器や林檎の形をわずかに歪めたり、テーブルの水平を少し傾けたりしながら、わずかに不安定感や違和感を覚えさせる工夫をして、見る者の感性に訴える仕掛けの写実表現への変化である。それを「写実の欠除」と称したのである。

「或る処で写実を欠除させ、その欠除を写実以上の深い美によつてうづめればいゝのである。こゝに美術上の最も深い、超現実観が生まれるのであつて、クラシックの美は大抵この域に至つてゐる。」(『岸田劉生全集第三巻』129頁)と述べている。

岸田は、「写実の欠除」、「クラシックの美」に続けて、「ミスチックな味」という言い方もしている。

鶴沼時代の最後の年、1923年2月に友人河野通勢宅で《慶長遊女遊戯屏風》(《桜狩遊楽図屏風》)の複製写真を見て、「何といふ強さ、凄さ、ミスチックであらう」(『岸田劉生全集第三巻』488頁)と衝撃を受けたという。また近世初期風俗画のなかの最高傑作《彦根屏風》についても、「殊に双六をする若き男女の、男の顔の如きは、気味悪い程のミスチックな生きものの味を持つてゐる。」(『岸田劉生全集第四巻』199頁)と述べている。

岸田が、東洋的な趣味、つまり中国や日本の美術に関心をもちはじめたのは、同じ鶴沼に住み自身も絵も買い、パトロン原善一郎、西郷健雄の原一族を紹介してくれた和辻哲郎(1915年から18年まで鶴沼に住む)と知り合つて案内役をしてくれたからであった。

鵠沼時代の麗子像と於松像について

次に鵠沼時代の人物画のなかで、とくに麗子像と於松像について考えてみたい。

麗子は、1914年4月10日に誕生した。

その感動を岸田は「オギヤ、といふ声をきくとゝもに、ほつとした。嬉しかつた。只嬉しかつた。子供を只喜んだ」「たまらなく可愛かつた。他人といふものとまるでちがつた肉体的な愛を感じた」(『岸田劉生全集第五巻』136頁)と日記に書いている。他人とは違う肉体的な愛とは、自分の血肉を分けた小さな分身への愛であったろう。そして4月24日付けの鉛筆素描《Reiko》を意外と冷静な筆で残した。岸田は、これを嚆矢として、1929年の《麗子十六歳之像》まで数多くの麗子像を描き続けることになる。

なかでも、鵠沼時代に多くの麗子像を描いた。鵠沼に移って1年後の1918年、数えて5歳となり、モデルが少しの間務まるようになった麗子を油彩で描いたのが《麗子肖像(麗子五歳之像)》(10月8日)である。この頃、デューラーに心酔していたこともあり、濃密で古典的な写実による麗子像を制作している。この後、次々と麗子像を描いていく。

また、岸田家の近所に住み、母親が岸田家の手伝いに来ていた関係で、3歳年下の麗子とよく遊んでいた於松(葉山マツ)も岸田のモデルとなった。1918年から1922年までの約4年間にわたり、「於松像」、「村娘図」を多く描いた。

ここでは、この時期の麗子像と於松像(『岸田劉生画集』(岩波書店、1984年)掲載作品を中心とする)を比較しながら、二人の人物像がどのように変遷したのかを見ていきたい。

1918年の傾向

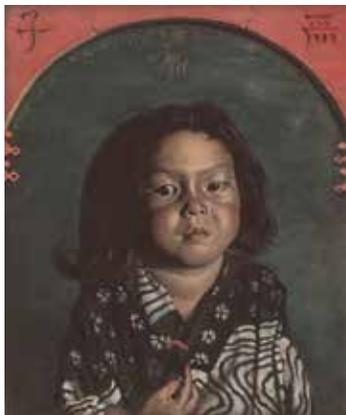
岸田は、1918年の2月23日に鵠沼の佐藤別荘に移り、さらに6月24日に洋館付きの松本別荘に転居した。それ以降、静物画と風景画を中心に描き出し、年末近くから人物画を描き出した。

先述の油彩《麗子肖像(麗子五歳之像)》は10月8日に完成し、於松を描いた素描《村娘之図》は11月26日の作である。

この2作は、静物画で述べた「クラシックの美」に入るもので、デューラーなど古典的な写実に倣った方法で描かれている。

《麗子肖像(麗子五歳之像)》は、8月下旬から描き始めたもので、途中で筆を休める。それは、デューラーの複製画を見て心を打たれ、「何をしても始まらない気がしてきました。まるで人間がちがふのだ、主観そのものゝ深さが先天的にちがふのだ」(『岸田劉生全集第二巻』262頁)と思うようになり、中断していた。しかし、デューラーに立ち向かう気持ちを持って再び奮い立つように、「深いものを得る迄必ず極はめる。幾度でも幾度でも彼等に及びつく迄は必ずやる」(同書、262頁)と決心して完成させた。右手に小さな花を持たせているところ、アーチ形の左右に「麗子」と書いているところ、背景の中央に装飾文字サイン「劉」を書いているところなどにデューラーの影響が見られる。

素描《村娘之図》でも、左手に小さな花を持ち、右上に装飾文字サイン「劉」を書いている。そして正確で写実的な鉛筆デッサンとして仕上げている。



油彩《麗子五歳之像》(1918.10.08)
45.1×37.8cm、東京国立近代美術館



鉛筆《村娘之図》(1918.11.26)
34.4×22.6cm、上原美術館

1919年の傾向

この年の岸田は、鶴沼を拠点として東京に通い、関西にも行くなど大いに活躍した。

4月に白樺十周年記念主催岸田劉生作品個人展覧会を東京・京橋で大々的に開催し、それが5月に京都に巡回、6月には第6回草土展が京都で開催となり京都、奈良を旅行した。この年、友人の和辻哲郎から著書『古寺巡礼』が送られてきていて、それが刺激になって京都、奈良を巡ったようである。

麗子像と於松像も活発に描いた。

麗子像を見ると、2月5日制作の《麗子六歳之像》(木炭、水彩)、3月7日制作の《麗子六歳之像》(水彩)、4月21日制作の《麗子》(木炭、クレヨン)、8月23日制作の《麗子坐像》(油彩)、12月18日制作の《麗子像》(木炭、パステル、水彩)がある。2つの《麗子六歳之像》と《麗子》では、特徴的な毛糸肩掛けを羽織らせている。これは、1921年10月15日作《麗子微笑》でも羽織らせた毛糸肩掛けであった。《麗子坐像》(油彩)では、赤と黄色のメリンスの絞りを着ている。これは、1922年3月21日制作の《二人麗子図(童女髪飾図)》でも見られる着物である。

於松像は、2月2日制作《村娘之図》(水彩、テンペラ)、2月25日制作の《村娘之図》(油彩)、3月26日制作の《村娘》(木炭、水彩)、4月13日制作の《村娘之図》(木炭、水彩)、4月21日制作の《村娘之図》(木炭、パステル、水彩)、4月30日制作の《村娘図》(木炭、クレヨン)、6月1日制作の《村娘之図》(木炭、パステル、水彩)があり、そのすべてが白地に赤い格子柄の入った羽織を着ている。また髪飾りとして、赤い花を付けたものが3点あり、他も小花のベルト状のものなどがある。すべてがバストショットで右正面を見るが、4月30日制作の《村娘図》だけ左正面を見る図である。



水彩、テンペラ《村娘之図》
(1919.02.02)34.3×26.8cm



木炭、水彩《麗子六歳之像》
(1919.02.05)36.5×27.7cm



油彩《村娘之図》
(1919.02.25)51.5×39.5cm



水彩《麗子六歳之像》
(1919.03.07)41.5×31.2cm



木炭、水彩《村娘》
(1919.03.26)37.9×28cm



木炭、水彩《村娘之図》
(1919.04.13)45.3×34.1cm、
下関市立美術館



木炭、クレヨン《麗子》
(1919.04.21)39.9×31.5cm



木炭、パステル、水彩《村娘之図》
(1919.04.21)40.6×31.6cm、
笠間日動美術館



木炭、クレヨン《村娘之図》
(1919.04.30)38.5×30.8cm



木炭、パステル、水彩《村娘之図》
(1919.06.01)37.8×29.8cm



油彩《麗子坐像》
(1919.08.23)72.5×60.4cm、ポーラ美術館



木炭、パステル、水彩《麗子像》
(1919.12.18)48.2×34cm

1920年の傾向

岸田は、それまで断続的につけていた日記を1920年元旦から毎日のように記しはじめ、1925年7月9日まで続ける。これにより、作品と日記の照合が可能になり、どのような状況で描かれたのかなどの情報が得られやすくなる。

この年は、11月に岸田劉生個人展覧会を東京・神田の流逸荘で開催し、12月に第八回草土社展を東京・赤坂の三会堂で開催している。また、11月に原三溪の長男でパトロンの原善一郎宅を和辻哲郎とともに訪ね、中国宋元画、とくに南宋の画家の「毛益の猫の絵」(『岸田劉生全集第五巻』492頁)を見て大いに刺激を受けている。

また日本画を描き始めるなど、東洋的なものに興味を持ち始める年でもある。

麗子像は、1月9日制作の《麗子》(水彩)、1月28日制作の《麗子坐像》(水彩)、2月3日制作の《麗子微笑》(水彩)、2月18日制作の《麗子微笑》(木炭、水彩)、2月25日制作の《麗子立像》(水彩)、2月28日制作の《麗子之像》(木炭、水彩)、3月1日制作の《麗子之像》(水彩)、11月7日制作の《麗子坐像》(木炭、水彩)、11月10日制作の《毛糸肩掛せる麗子肖像》(油彩)がある。

その内、緋の羽織を着たものが3点、白地に赤い格子柄の入った羽織を着たものが2点、毛糸肩掛の肩掛を着たものが2点である。

於松像は、3月7日制作の《村娘之図》(水彩)、3月14日制作の《村娘座像》(水彩)、3月15日制作の《村娘図》(水彩、**当該作品**)、6月12日制作の《村娘於松之像》(油彩)、10月18日制作の《村娘図》(水彩)、12月31日制作の《村娘於松之図》(水彩)である。

その内、緋の羽織を着たものが1点、白地に赤い格子柄の入った羽織を着たものが3点、毛糸肩掛の肩掛を着たものが1点である。

いずれの羽織も麗子像と共通のものであり、岸田が、麗子像と於松像を同じ方向の人物画として描いていたことが分かる。また、いずれの於松像にも、白や赤の花の髪飾りが描かれている。

麗子像と於松像に共通のものとして、赤い縁(帯)が描かれるようになる。2月18日制作の《麗子微笑》では画面上部に、3月7日制作の《村娘之図》では画面上部に制作年月日とともに、画面下部に装飾模様とともに、3月15日制作の《村娘図》では画面上部の「コ」型に制作年月日とともに、6月12日制作の《村娘於松之像》では画面上部と左右の「コ」型に制作年月日とともに描かれている。

赤い縁(帯)がどこから来ているのか不明であるが、筆者は、歌川広重の浮世絵の影響と考えている。広重の「名所江戸百景」や「六十余州名所図会」には赤い短冊にシリーズ名が描かれていて、それを参考にしてきた可能性が考えられる。この年は、東洋的なものに関心を深めていた時期であった。岸田の日記に広重の浮世絵のことが出てくるのは、翌1921年のことであるが、広重の図柄についてはそれ以前から知っていたと考えてよいだろう。

「大正堂に広重の田毎の月のいゝ版があつたが、欲しいので、聞いたら千三百円といふ価がついてゐたがどうもかけねらしい。」(5月31日)、「常磐木倶楽部で、大正堂から持つて来た例の広重の田毎の月を価ぶみさしたら五円といふ。」(6月3日)、「芝川氏から広重江戸名所の新しい版の本二冊送つてくれた。見てみるとやはり感心する。」(7月18日) (『岸田劉生全集第六巻』163頁、166頁、209頁)と記されている。



水彩《麗子》
(1920.01.09)43.8×34cm



水彩《麗子坐像》
(1920.01.28)34×47cm、アーティゾン美術館



水彩《麗子微笑》
(1920.02.03)33×45cm



木炭、水彩《麗子微笑》
(1920.02.18)50.8×34.2cm



水彩《麗子》
(1920.01.09)43.8×34cm



水彩《麗子微笑》
(1920.02.03)33×45cm



水彩《麗子之像》
(1920.03.01)39.5×28.5cm



水彩《村娘之図》
(1920.03.07)52×35cm



水彩《村娘座像》
(1920.03.14)50.5×34cm



水彩《村娘図》
(1920.03.15)37.7×27.5cm、
下瀬美術館



油彩《村娘於松之像》
(1920.06.12)45.6×33.3cm



水彩《村娘図》
(1920.10.18)43.8×34cm



木炭、水彩《麗子坐像》
(1920.11.07)47×31.8cm



油彩《毛糸肩掛せる麗子肖像》
(1920.11.10)45.2×38cm、
ウッドワン美術館



水彩《村娘於松之図》
(1920.12.31)39×29cm

1921年の傾向

1921年は、1月に名古屋での草土社展に出品、10月の第3回帝展に《童女像(麗子八歳洋装之像)》を出品、11月に神田・流逸荘で個展開催、《麗子微笑》など43点を出品、その中に昨年から描き出した日本画も含まれた。また12月に芝川照吉邸で個展を開催した。この時期、歌舞伎の観劇に東京に通い、長唄の手習いも始めるなど日本趣味に傾倒していった。

この年、麗子が学校に通うようになり、長時間のモデルに耐えられるようになり多くを描いた。ざっと見ていくと、4月3日制作の《麗子微笑立像》(水彩)、4月10日制作の《麗子八歳之像》(油彩)、5月22日制作の《麗子洋装之像》(木炭、水彩)、8月31日制作の《麗子洋装之像》(コンテ、水彩)、9月2日制作の《麗子洋装之像》(水彩)、9月27日制作の《麗子八歳洋装之像》(油彩)、9月30日制作の《麗子洋装之図》(水彩)、10月1日制作の《麗子微笑》(水彩)、10月4日制作の《麗子像》(コンテ、水彩)、10月15日制作の《麗子微笑》(油彩)、11月1日制作の《紫色毛糸洋服着たる麗子坐像》(水彩)がある。《童女像(麗子八歳洋装之像)》と《麗子微笑》という麗子像の頂点ともいえる名作を残した年であった。

麗子の服装は、それまでの毛糸肩掛けや白地に赤い格子柄の入った羽織に加え、赤いワンピースや紫色のオーバーセーターを着せたものが登場した。それは岸田が麗子用に選んだもので、赤いワンピースは前年に銀座の子供服「三枝」で買い、紫色のオーバーセーターは新橋の「森田屋」で買ったものである。

麗子像のポーズは、右手に花や果物をもたせるもの、膝に手を重ねて置いているものが見られる。花を持たせるのは、1918年の《麗子肖像(麗子五歳之像)》で述べたようにデューラーの影響、手を重ねて置くのはレオナルドの影響と思われる。

手を重ねて置く《麗子洋装之像》を制作した5月22日の日記を見ると、「二三日前からレオナルドの本から素描の刺激をうけてゐるので、やつてみたくなつたのだ」(『岸田劉生全集第六巻』151頁)とある。5月13日の日記には「今日ムンツェのレオナルドダビンチの本が届いた。見たら実にいゝ。今更レオナルドの前には頭が下る」(『岸田劉生全集第六巻』140頁)と記している。ただ、レオナルドの肖像画は左を向いているのが多いが、岸田の麗子像は右を向くものが多い。

レオナルドの影響と思われるものとして、「微笑」がある。これは前年1920年2月3日制作の《麗子微笑》(水彩)あたりから始まり、1921年の麗子像の多くは微笑を湛えている。そして《麗子微笑》という名作を生むことになる。岸田は、「この画には、今迄の私の画にはあまりなかった、やはらか味が加へられてあります。一種妖艶の様な味が加へられました。」(『岸田劉生全集第三巻』102頁)と述べ、「微笑」の効果としてより柔らかさが加わったとした。

東洋的なものに惹かれる中でも、西洋古典の良さにも目配りをしていたのは興味深い。

於松像は、1月7日制作の《村娘於松立像》(水彩)と同日の《村娘》(鉛筆、水彩)がある。麗子像が増えて、於松像が減っている。1月4日の日記に「昼食後御松が来てゐるのでお松の立像をかく。…毛糸の肩掛して麗子の羽織きて立つているもの」(『岸田劉生全集第六巻』6頁)とあり、1月7日の日記に「昼食後お松に水彩立像の続きをかき、仕上げる。それからまだ何かし足りないので、お松の鉛筆素描に単彩したものワットマン八切の小品かいたがもう頭に力がなくて少し粗雑にしかなかつたが、或る感じはある」(『岸田劉生全集第六巻』10頁)と記している。

1920年から1921年にかけて、毛糸肩掛を着せた麗子像と於松像を集中的に描いているのが面白い。毛糸の鄙びた感じを気に入り、麗子にも於松にも着させている。毛糸の細密な表現には時間を要するので、時に枕と布団に肩掛を着させて、毛糸肩掛だけを描き足すこともあった。「モデルはやはり枕とフトンだが、形がくづれないので大へんいゝ」(『岸田劉生全集第五巻』469頁)と述べている。



水彩《村娘於松立像》
(1921.01.07)50.5×34.5cm、
東京国立近代美術館



鉛筆、水彩《村娘》
(1921.01.07)33×24.5cm



水彩《麗子微笑立像》
(1921.04.03)50.5×34.5cm、
メナード美術館



油彩《麗子八歳之像》
(1921.04.10)45.5×38.5cm



木炭、水彩《麗子洋装之像》
(1921.05.22)49.5×33.5cm、
清春白樺美術館



コンテ、水彩《麗子洋装之像》
(1921.08.31)47×32.5cm、
下関市立美術館



水彩《麗子洋装之像》
(1921.09.02)50.8×44.6cm、
長谷川町子美術館



油彩《麗子八歳洋装之像》
(1921.09.27)53.4×45.8cm



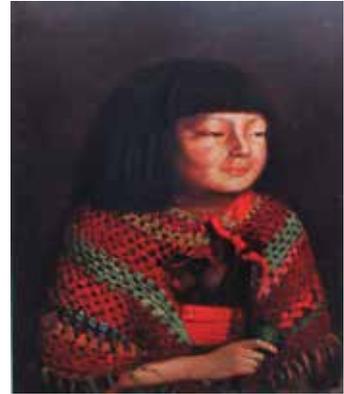
水彩《麗子洋装之図》
(1921.09.30)51×34.5cm、
豊田市美術館



水彩《麗子微笑》
(1921.10.01)41.8×345cm



コンテ、水彩《麗子像》
(1921.10.04)44.8×34.45cm



油彩《麗子微笑》
(1921.10.15)45.6×38.25cm、
東京国立博物館



水彩《紫色糸糸洋服着たる麗子坐像》
(1921.11.01)51×345cm、
メナード美術館

1922 - 23年の傾向

岸田は1922年から中国宋元画の収集を始めている。同年5月に志賀直哉から「支那の鳥の画」、別の知人から元代の趙子昂の駱駝の画を入手している。11月には、志賀宅を訪ねて《蓮花と白鷺》など宋元画を見たり、三溪園で池大雅や与謝野蕪村、田能村竹田の作品を見たりして大いに刺激を受けている。中国宋元画や近世絵画などの研究をし、「東洋芸術の『卑近美』に就て」や「写実の欠除の考察」といった芸術論も発表している。

この年4月にパリのグラン・パレで開催された「日本美術展覧会」に1921年9月27日制作の《麗子八歳洋装之図》を出品、5月に小石川の野島康三郎で個展を開催、《童女飾髪図》などの油彩や水彩、素描、半切画(日本画)、計23点を出品、9月に下谷の兼葭堂で日本画だけ45点による個展を開催、11月の草土社展に油彩8点を出品している。1923年5月の第1回春陽会展には、油彩、素描、日本画の13点を出品している。

以上のように日本画制作が増えるとともに、油彩画も日本的な表現に寄ったものが多くなる。

1922年の於松像は5月19日制作の《村娘図》(テンペラ)1点で、最後の作品となったようだ。5月17日の日記に「お松が来たので、お松を丁度八号のアブスルベン[アブソルバン]があつたのでテムペラではじめる。少し淡彩風にしたが中々味があるものになった。」(『岸田劉生全集第七巻』173頁)、19日に日記に

「村娘が来てみたのでテムペラの続きかく。」(『岸田劉生全集第七巻』176頁)とある。「大正十一年製作日記」には「村娘図テムペラ八号を六号になおし、完成」(『岸田劉生全集第七巻』472頁)とある。

1922年は、麗子の油彩を多く制作している。2月20日制作の《麗子住吉詣之立像》(油彩)、3月21日制作の《二人麗子(童女飾髪図)》(油彩)、3月28日制作の《麗子》(テンペラ)、3月30日制作の《麗子像》(水彩)、5月20日制作の《野童女》(油彩)、同《笑童女(洋装半身)》(水彩)、7月9日制作の《麗子微笑》(油彩)、11月2日制作の《麗子之像》(油彩)、1923年1月28日制作の《麗子弾絃図》(油彩)、4月15日制作の《童女図》(油彩)がある。

《麗子住吉詣之立像》は、大阪・住吉大社の縁起物「住吉踊」を手に掲げた図で、立像の油彩としては初めてである。口元に微笑を湛え、手と足を異様に小さく、おかっぱの髪を《麗子微笑》よりさらに大きく描く。体の各部分のバランスをとるのが難しかったようで、2月19日の日記に「一度ふちに入れてかけてみたら手の位置が少し変なのでそれもなおしたら、どうも今迄顔の体へつきぐわいが不自然だったのがすっかりなほつた。もう一日、明日かけば、この画の修正も完成する。本当によかつたと思ふ。今迄本当にこの画はもう駄目かと思つてゐたのに、今日で全くもちなほした。感謝したい気がする。」(『岸田劉生全集第七巻』64頁)、2月20日の日記には「本当に昨日迄はこの画はもう駄目かと幾度も思つたのだが昨日からたしかにもちなおしてとう／＼今日完成した。この画が復活した事は余の喜びだ。」(65-66頁)とこの作品の完成を喜んでいる。

《二人麗子図(童女飾髪図)》は、西洋古典絵画の影響を脱し、近世初期風俗画(岸田のいう「初期肉筆浮世絵」、「又兵衛風」)の雰囲気、「ミスチックな味」を出そうとしたものであった。

少し唐突のような感じもするが、個人展覧会の案内文においても、自らの「作風に就いては、これ迄の僕よりは、筆が大きくなつてゐる事、去年あたり迄の様な、フランドル風な描方が漸時になくなつて、一体にもつと筆意のみへる自由な描方を用ひてある事。色々それに添つて變つて来てゐる事等である」(『岸田劉生全集第三巻』140頁)とし、「やうやくフランドル風な画面や自分のリアリズムを卒業」(142頁)したと述べている。

そして、「浮世画ことに初代又兵衛あたりの大味な一種のミスチックな、味にも引かれてゐる、童女飾髪、麗子立像の画因は幾分そこに負ふところがある」(143頁)とも述べ、中国元宗画や近世初期風俗画に強い関心を示し、その趣味の作品を試みたとしている。岸田の述べる「自由な描方」とは、顔と頭髮の大きさのアンバランスや手足の不自然な小ささなど人体のデフォルメにも表れているものである。

《麗子弾絃図》は、おかっぱ頭の麗子が稽古本台に向かって座り、赤い匹田絞りの着物を着て、右手に撥を持って三味線の稽古をする姿である。1923年1月27日の日記に「麗子が三味線を弾いてゐるところをいつか描きかけた村嬢の六号をぬりつぶしてかく。もう一日、かけば仕上る。スケッチ風のものだが一寸面白く出来る。又兵衛の彦根屏風を頭においてかいた」(『岸田劉生全集第八巻』32頁)と書く。つまり、《彦根屏風》に登場する3人の三味線を弾く男女の姿や禿の髪型、遊女の赤い着物などを参考に描きはじめたものであった。翌日「麗子の画にかゝり、仕上げる。黒髪の文句を画の上部と、図中のけい古本にかく、道楽也。」(『岸田劉生全集第八巻』33頁)とも書く。画面上部の帯の部分と広げた稽古本の中に、地唄「黒髪」の唄の文句「くろかみのむすばれたる思ひには、とけて寝た夜の枕とて、ひとりねる夜は仇枕…」などと書いている。ちょっとした遊び心である。

《麗子弾絃図》は、劉生が言うように2日程で描いたスケッチ風の淡白な油彩画である。劉生の油彩画といえば、長期にわたって根を詰めて細密に塗り重ねていく写実的な表現が多かったが、1922年頃から短期間で描くことができる水彩画や日本画をはじめようになる。《麗子弾絃図》もその流れで、素早いタッチで透視図法も無視して平面的に描かれている。しかも、着物姿に三味線、地唄の文句と日本画で描いた方がふさわしいモチーフでもあるにも関わらず、あえて油彩で仕上げた作品である。



油彩《麗子住吉詣之立像》
(1922.02.20)80.4×60.6cm



油彩《二人麗子(童女飾髪図)》
(1922.03.21)90.3×72.7cm、
泉屋博古館分館



テンペラ《麗子》
(1922.03.28)41×31.9cm、
アーティゾン美術館



水彩《麗子像》
(1922.03.30)33×25cm



鉛筆、パステル《村娘図》
(1922.05.19)40.5×31.5cm



油彩《野童女》
(1922.05.20)65×53cm、
神奈川県立近代美術館寄託



水彩《笑童女(洋装半身)》
(1922.05.20)37.7×28cm



油彩《麗子微笑》
(1922.07.09)33×23.5cm



油彩《麗子之像》
(1922.11.02)45.6×37.9cm



油彩《麗子弾絃図》
(1923.01.28)40.9×31.7cm、
京都国立近代美術館



油彩《童女図》
(1923.04.15)53.1×45.6cm

《村娘図》(1920年3月15日制作)の特徴

岸田は、これまで見てきたように1918年から於松を描き始め、松像についての文章も残している。1918年11月23日に制作した《村娘之図》(上記リストになく、所在不明)について次のように記している。

これは、僕の家近郊の百姓家の娘でお松ちゃんという今年八歳の子です。自家の娘とも時として遊ぶ事もあるので前から知つてゐましたが、この子がこの羽織と着物を着て学校から帰る処を見て随分いゝ材料だと思つて描く事にしたのでした。麗子の肖像を描いたので子供をかく事に気が向いてゐたので猶これをかく気になつたのでせう。しかし味はまるで違つたものです。

この画に描かうとしたものはいろ／＼あつて一口には云へませんが鄙びた田舎娘の持つ或る美です。間のぬけた、気の利かない、時代後れの、善良な感じ、かういふ感じの美というものがたしかに有ります。デウレル[デューラー]や、ヴァンエック[ヴァン・ダイク]の或る画にはこの味が美しく出てゐます。僕もそれ等の画からかういふ感じ深さを教へられてゐました。

構図もさういふ風に取りました。花を持つ手は素朴に、キョトシと前方を見て無心でゐる様な感じを取りました。花はつわぶきといふ花で、やはりこの感じにふさわしい変な美があると思へます。着物や羽織も実に美しいものです。それが如何にも田舎風な模様はその色が退めてゐると相待つて不思議な美を持つてゐると思ひました。着物の田舎にしかない手織木綿の色や垢じみた襟も変な美があります。向つて左の肩の羽織が一寸破れてけば立つてゐるのも不思議に美しい。上部の両肩の裝飾文字も皆この画にふさわしく描きました。

しかしこの画に描かうとしたのは只それ丈の味ではありません、その顔や眼や眉の変に宿る不思議な澄んだ永遠な美、生きた力さういふものを描かうとしました。無論それ等の感じも鄙びた美の中に包まれてはゐますが。(『岸田劉生全集第二巻』265-266頁)

この文章で分かるのは、岸田が於松を麗子とは違う味をもつた「いゝ材料」(恰好のモチーフ)ととらえていたことである。

その理由として挙げたのが、「鄙びた田舎娘の持つ或る美」である。着物の田舎風の模様や色褪せたところ、左肩の綻んでいるところに不思議な美を見出している。

《村娘図》(1920年3月15日制作)においても、於松は退色褪せた白地に赤い格子柄の羽織を着て、右肩のところが綻んでいて、鄙びた美を見出すことができる。

本作の基本的な位置づけとしては、デューラーなど古典的な写実に倣った「クラシックの美」の手法で描かれていると考えられる。

ただそこに東洋的な傾向も見られる。それが、歌川広重の影響と考えられる赤い縁(帯)である。この赤い縁(帯)は、後の《麗子弾絃図》(1923年1月28日制作)にも、《麗子十六歳之像》(1929年5月制作)にも見られるものである。ただ1922年から近世初期風俗画に影響を受けて「ミステックな味」を好むようになるが、その傾向はまだ見られていない。

したがって本作は、岸田の西洋古典絵画の影響を受けた写実的な傾向、つまり「クラシックの美」の完成期ながら、東洋的な傾向が見え始めた初期に描かれた作品と位置付けられる。さらにいえば於松像の完成期の作品ということができるものである。

(主要参考文献および図版出典)

『岸田劉生全集』全十巻岩波書店、1979-80年

『岸田劉生画集』岩波書店、1984年

『岸田劉生・麗子展』ふくやま美術館、2003年

『岸田劉生展 一実在の神秘、その謎を追うー』水声社、2018年

『没後90年記念 岸田劉生展』中日新聞社、2019年

1 建築概要

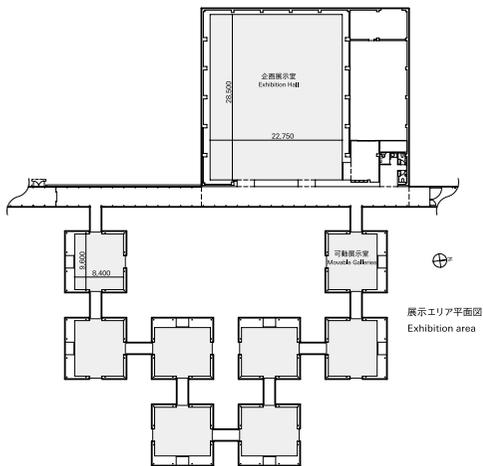
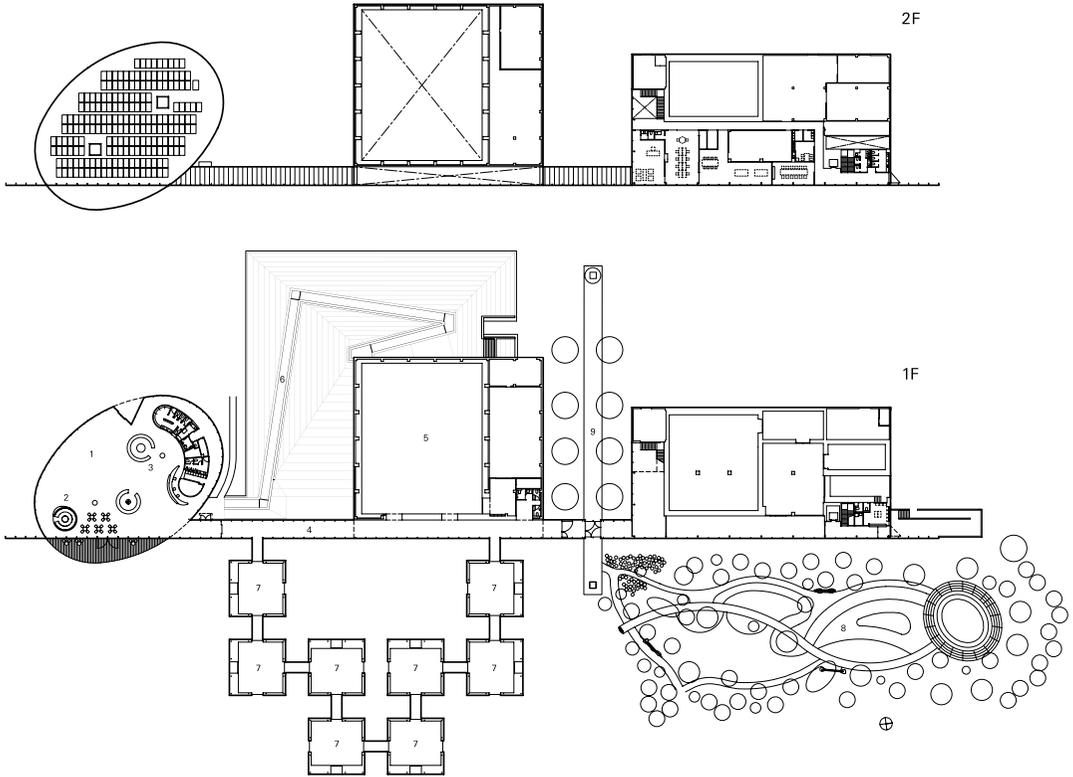
施設名称	下瀬美術館
所在地	広島県大竹市晴海二丁目10番50号
敷地面積	46,412.74㎡
建築面積	4,815.02㎡
延床面積	5,946.81㎡
	管理部門(事務室等)704.99㎡
	研究部門(研究室)150.88㎡
	展示部門(展示室)1,560.33㎡
	収蔵部門(収蔵庫)683.06㎡
	その他(ホール・廊下等)2,847.55㎡
構造	RC造、鉄骨造、一部木造
階数	地上2階、地下1階
建築主	丸井産業株式会社 代表取締役 下瀬ゆみ子
設計監理	株式会社坂茂建築設計
施工業者	鹿島建設株式会社 中国支店
施工期間	2021年5月～2023年1月

エントランス棟

主体構造	鉄骨造、一部木造
階数	地上1階
床面積	808.83㎡
天井高	4,825mm
床仕上	エポキシ樹脂系塗装+ウレタン防塵塗装
壁仕上	不燃煉り付け化粧板 バンゼルローズ t=4
天井仕上	GB t=12.5+9.5 EP-G塗装

企画展示室

主体構造	鉄筋コンクリート造 一部プレストレストコンクリート造、鉄骨造
階数	地上2階、地下1階
床面積	776.25㎡
天井高	4,500mm
床仕上	エポキシ樹脂系塗装+ウレタン防塵塗装
壁仕上	合板 t=12 GB t=12.5 EP-G塗装
天井仕上	GB t=12.5+9.5 EP-G塗装
照明	ダウンライト、LEDウォールウォッシュヤ 色温度3,500K 調光1～100% 無線信号制御方式(制御用タブレット) スポット照明用ライティングダクト



- 1 エントランス棟
- 2 ミュージウムカフェ
- 3 ミュージウムショップ
- 4 通路
- 5 企画展示室
- 6 望洋テラスへの遊歩道
- 7 可動展示室
- 8 エミール・ガレの庭
- 9 鏡の森

可動展示室

主体構造	鉄骨造+鋼製台船造
床面積	98.01㎡×8棟
天井高	3,500mm
床仕上	長尺ビニルシート
壁仕上	合板 t=12 GB t=12.5 EP-G塗装
天井仕上	軽量GB t=12.5 EP-G塗装
照明	LEDダウンライト、LEDウォールウォッシャ 色温度3,500K 調光1～100% スポット照明用ライティングダクト

管理棟収蔵庫

主体構造	鉄骨造
床面積	533.86㎡(一時保管庫を除く)
天井高	6,400mm(一部3,500mm)
床仕上	ブナフローリング t=15 無塗装 乱尺張り
壁仕上	無機質系調湿板 t=8 一部日本杉 無塗装
天井仕上	無機質系調湿板 t=8 一部日本杉 無塗装
照明	LEDライン照明 色温度3,500K

設備概要

電気設備	受電方式 高圧受電6.6kV 1回線 設備容量2,250kVA 予備電源 非常用発電機225kVA 太陽光発電設備305kW
空調設備	熱源空冷式ヒートポンプチラー5モジュール 展示室・収蔵庫 エアハンドリングユニット+単一ダクト方式(恒温恒湿) 可動展示棟 恒温恒湿パッケージ形空調機 管理・事務室等 外調機+パッケージ形空調機(空冷ヒートポンプ式(電気)) エントランス棟 エアハンドリングユニット+単一ダクト方式併用の床輻射冷暖房方式
消火設備	ハロゲン化物消火設備(展示室・収蔵庫・一時保管庫) 屋内消火栓および消火器
排煙設備	自然排煙設備および機械排煙
防犯設備	機械警備システム/入退室管理システム 監視カメラ/防犯センサー
衛生設備	給水(水道直結方式) 給湯(局所給湯方式) 排水(汚水雑排水合流、公共下水放流、雨水分流)
駐車台数	83台(車椅子用2台)

下瀬美術館管理規則

2023(令和5年)年3月1日

規則 第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、下瀬美術館(以下「美術館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

(1)毎週月曜日(これらの日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その限りではない)

(2)12月30日から翌年1月1日まで

2 前項の規定にかかわらず、下瀬美術館館長(以下「館長」という)が特に必要があると認めるときは、あらかじめ掲示して臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(開館時間)

第3条 美術館の開館時間は、9時30分から17時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が特に必要があると認めるときは、開館時間を変更することができる。

(入館の制限)

第4条 館長は、次のいずれかに該当する者に対し、その入館を拒否し、または退館を命ずることができる。

(1)館内の秩序を乱し、または乱すおそれのある者

(2)美術館の施設もしくは設備または美術品を損傷するおそれのある者

(3)その他館長の指示に従わない者

(入館者の遵守事項)

第5条 美術館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1)美術品等に触れないこと。

(2)インクの筆記具でメモをとらないこと。

(3)所蔵作品のフラッシュ撮影をしないこと、所蔵作品以外の美術品等の撮影をしないこと。

(4)事前の許可申請をせずに、館内で模写をしないこと。

(5)事前の許可申請をせずに、館内での動画撮影をしないこと。

(6)館内もしくは敷地内で喫煙をしないこと。

(7)展示室エリア内で携帯電話の通話、飲食をしないこと、または大きな手荷物を持ち込まないこと。

(8)館内に傘を持ち込まないこと。

(9)その他館長が指示する事項。

(入館料)

第6条 美術館の入館者は、館長の定める入館券によらなければならない。

(1)入館料は、その都度館長が定める。

(入館料の減免)

第7条 次のいずれかに該当する者に対し、入館料を免除または減額をする。

- (1)中学生以下の者。
- (2)大竹市内に所在する小学校、中学校の児童生徒および引率者が、教育活動の一環として入館する場合。
- (3)障害者手帳を有する者及び付添者。ただし、付添者は、当該障害者等1人につき1人に限る。
- (4)20人以上の団体。
- (5)大竹市民。
- (6)その他館長が特に必要と認めた者。

(特別観覧の許可)

第8条 美術館の所蔵品の写真原板使用、写真撮影、動画撮影、模写、模造又は熟覧(以下これらを「特別観覧」という。)をしようとする者は、特別観覧をしようとする日の七日前までに申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

(寄託)

第9条 館長は、美術品の所有者から寄託の依頼があった場合、美術館設置の趣旨に沿うと認めるときは、これを無償で受託することができる。

- 2 美術品を寄託しようとする者は、美術品寄託申請書(様式第1号)を館長に提出し、その承認を受けるものとする。

(寄託品の受託並びに返還)

第10条 館長は、美術品の寄託を受けたときは、寄託者に寄託証書(様式第2号)を交付するとともに寄託原符に必要事項を記入するものとする。

- 2 寄託品の返還を受けようとする者は、原則として返還を受けようとする日の1月前に返還請求書(様式3号)を館長に提出しなければならない。
- 3 寄託品は、寄託証書と引き替えに所有者に引き渡すものとする。
- 4 作品を受け取る者が寄託者の代理人のときは、寄託証書に、委任状その他受領権限を証する書類を添えるものとする。

(寄託期間及び期間の更新)

第11条 寄託期間は2年とする。ただし館長が必要と認めるときは、これを短縮し又は更新することができる。

- 2 寄託期間を経過後寄託者から返還の請求がない場合は寄託期間を更新したものとみなす。
- 3 寄託期間の更新をするときは、寄託証書の書換えを行うものとする。

(所有者の変更等)

第12条 寄託者は、寄託した美術品の所有者に変更があったとき又は所有者の氏名、名称、住所等に変更があったときは、寄託証書に変更内容を証する書類を添え、館長に提出し、寄託証書の書換えを行うものとする。

(寄託証書の再交付)

第13条 寄託証書を亡失し又は著しく損傷したときは、その理由を記載した書類(損傷した場合は、その寄託証書)を添え、寄託証書の再発行を申請するものとする。

(作品輸送経費の負担)

第14条 所有者は、寄託品の搬入又は返還に要する荷造り及び運搬の経費を負担しなければならない。ただし、館長において特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

(寄託品の保存等)

第15条 館長は、寄託した美術品の展示及び保存については、美術館に所蔵する美術品の例により取扱うものとする。

- 2 館長は、保存中の美術作品を補修する必要があると認めるときは、寄託者に助言を行うことがある。

(寄 付)

第16条 美術品を寄付しようとするときは、美術品寄付申込書(様式第4号)を館長に提出するものとする。

(寄付受納の決定)

第17条 館長は、寄付申込のあった美術品の受納の適否を申込者に通知するものとする。

- 2 館長は、美術品の受納のために美術品を一時借用し又は写真その他の資料の提出を求めることがある。

(美術品の貸付)

第18条 館長は、美術館に所蔵する美術品を国公私立美術館又はこれらに準ずる者に貸付けることができる。

(貸付手続)

第19条 美術品の貸付けを受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した美術品借用申請書を館長に提出するものとする。

- (1)美術品の名称
 - (2)借用目的
 - (3)借用期間
 - (4)保存及び管理の方法
 - (5)その他必要な事項
- 2 館長は、前項の申請を適当と認め、美術館の業務に支障がないと認めるときは、これを許可することができる。
 - 3 館長は、美術品の貸付けを行うときは、美術品の損傷等を確認して、引き渡すものとする。
 - 4 館長は、美術品の返還を受けるときは、美術品の損傷等を確認して、受領するものとする。

(貸付期間)

第20条 美術品の貸付期間は、2カ月を超えることはできない。ただし、館長が特別の事情があると認めるときは、この期間を延長することができる。

(貸付条件)

第21条 美術品を貸付けるときは、次に掲げる条件を付すものとする。

- (1)美術品の貸付期間中の保管は、貸付けを受けた者の責任とする。
- (2)美術品の輸送に要する経費等貸付けに伴う費用は、貸付けを受けた者の負担とする。
- (3)貸付期間中に美術品が亡失し又は損傷した場合には、貸付けを受けた者が賠償の責を負うこと。
- (4)その他館長が必要と認める事項。

(美術品の借用)

第22条 館長は、美術館が主催する展覧会等に展示するため、所有者の承諾を得て美術品を借用することができる。

- 2 館長は、借用する美術品を受領するときは、損傷等美術品の状態を確認し、借用証を所有者に提出するとともに借用証原符に必要な事項を記入するものとする。ただし、美術品の所有者が借用証を別に定めるときは、その様式によるものとする。
- 3 館長は、借用した美術品を返還するときは、所有者に美術品の確認を受け借用証の返還を受けるものとする。

(借用条件)

第23条 美術品を借用する場合は、原則として次に掲げる条件によるものとする。

- (1)美術品の借用期間中の保管の責任を有する。
 - (2)借用期間中に、美術品を亡失し又は損傷した場合は、その補償をする。ただし、天災その他不可抗力による場合は、この限りではない。
 - (3)借用に基づくすべての経費を負担する。
 - (4)所有者の承認を受けなければ、美術品の所蔵先を公表しない。
 - (5)美術館で発行する展覧会目録に掲載し、若しくは美術館に記録して保管するため又は報道機関に対して資料を提供する場合のほか、所有者の承認を得ないで写真撮影及び複写等を行わないものとする。
- 2 前項に定めるもののほか、所有者が貸与にあたり条件を付した場合は、館長はその条件を遵守するものとする。

(その他)

第24条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、2023年(令和5年)3月1日から施行する。

開館時間 9：30－17：00 *入場は16：30まで

休館日 月曜日(祝休日の場合は開館)
年末年始(12月30日～1月1日)
展示替え期間

アクセス 公共交通機関でのアクセス
広島駅－40分－JR玖波駅－こいこいバス10分－ゆめタウン徒歩5分
車でのアクセス
大竹IC－5分

所在地
〒739-0622
広島県大竹市晴海2丁目10-50
電話：0827-94-4000
Fax：0827-94-4100
URL：https://simose-museum.jp

下瀬美術館年報 2023年度

発行日 2024年6月27日発行

編集・発行 一般財団法人下瀬美術館